

平成 21 年度第 2 回
県政モニターアンケート報告書



県産材を使用した 木造住宅と木造施設 に関する意識調査

平成 21 年 10 月

青森県企画政策部広報広聴課

目 次

I 調査の概要	1
---------------	---

II 調査結果

問 1	現在どのような住宅に住んでいるか	3
問 2	これから住む住宅は、持ち家と借家のどちらがよいか	4
問 3	新たに住宅を取得する場合に、どのようなことを重視するか	5
問 4	新たに住宅を取得する場合に、どのような構造や工法を選ぶか	7
問 5	住宅を建築、増改築する際に使用する木材の産地を気にするか	10
問 6	県産材を使った木造住宅はどのようなイメージか	13
問 7	新たに住宅を取得する場合に、県産材を使いたいと思うか	15
問 8	地球温暖化に配慮するために、どのような住宅とすべきか	16
問 9	建築資材としての木材の魅力について、知っていることは何か	17
問 10	建築資材として木材によくないイメージがあるか	18
問 11	木材を利用した施設は、どのような印象か	22
問 12	木材をどのような施設や場所で利用すればよいか	24
問 13	木材を利用した施設が増えたらよいと思うか	25

III 県産材を使用した木造住宅や木造施設に関する

意見、要望等について	27
------------------	----

IV 調査票	34
--------------	----

V 参考資料	42
--------------	----

I 調査の概要

- 1 調査主題 県産材を使用した木造住宅と木造施設に関する意識調査
- 2 調査目的 青森県には、ヒバやアカマツ、ブナなど多様な樹種が分布し、特に、スギの人工林面積は全国 4 位を誇り、全国有数の森林県となっている。
これまで県では、公共事業等での積極的な利用をはじめ、住宅建築などにおいて県産材の利用促進に努めてきた。
地球温暖化防止に重要な役割を担う森林を健全な状態に保つためには、森林の間伐が重要であり、間伐によって生産された木材を住宅などの資材として有効に活用することで、森林の整備や林業の担い手の育成、木材産業の活性化が図られる。
そこで、このモニター調査を通して、県民から、県産材を利用した木造住宅や木造施設に関する意識と意見を聞き、今後の施策に役立てるためのアンケートを実施することとした。

※県産材とは、青森県内で伐採された原木を材料として、原則、県内で加工された柱や板などの製材品のことをいう。
- 3 調査時期 平成 21 年 7 月
- 4 調査方法 郵送による多項目選択方式（一部記述式）
- 5 調査対象 県政モニター200人（平成 21 年 7 月 1 日現在）
※県政モニターは、県内に在住する満 20 歳以上の方の中から、性別・年齢・職業・地域に偏りがないように、市町村推薦及び公募によって選ばれた人で構成されている。
- 6 回収率 89.0%
(回答者数) (178 人)

7 区分別内訳

区 分		回答者 (人)	百分率 (%)
合 計 (200) ※		178	100.0
性別	男 性 (100)	84	47.2
	女 性 (100)	94	52.8
年齢別	20 歳 代 (38)	31	17.5
	30 歳 代 (42)	38	21.3
	40 歳 代 (40)	38	21.3
	50 歳 代 (40)	36	20.2
	60 歳 以上 (40)	35	19.7
職業別	自 営 者 (65)	53	29.8
	勤 め 人 (67)	62	34.8
	無 職 等 (68)	63	35.4
地域別	市 部 (128)	118	66.3
	郡 部 (72)	60	33.7

※ () 内の数字は調査時点におけるモニター数である。

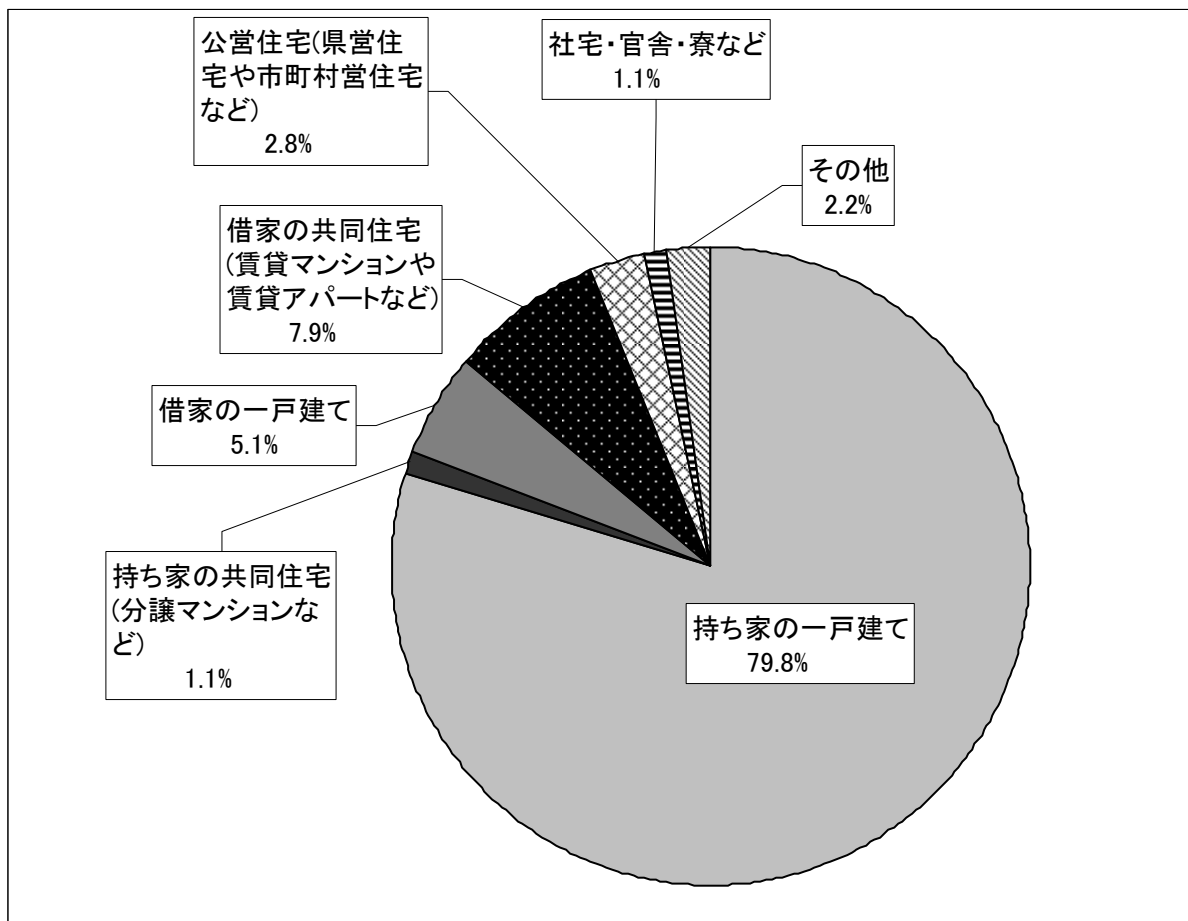
8 数字の見方

- (1) 結果は、主として回答者数 (178) を 100 とした百分率 (小数点以下第 2 位を四捨五入) で表示しているが、端数処理により計が 100%にならない場合がある。
- (2) 複数回答の百分率も、特に断りがない場合は、回答数を回答者数 (178) で除した比率である。

Ⅱ 調査結果

問1 あなたが、現在お住まいの住宅は、次のどれに該当しますか。(回答は1つ)

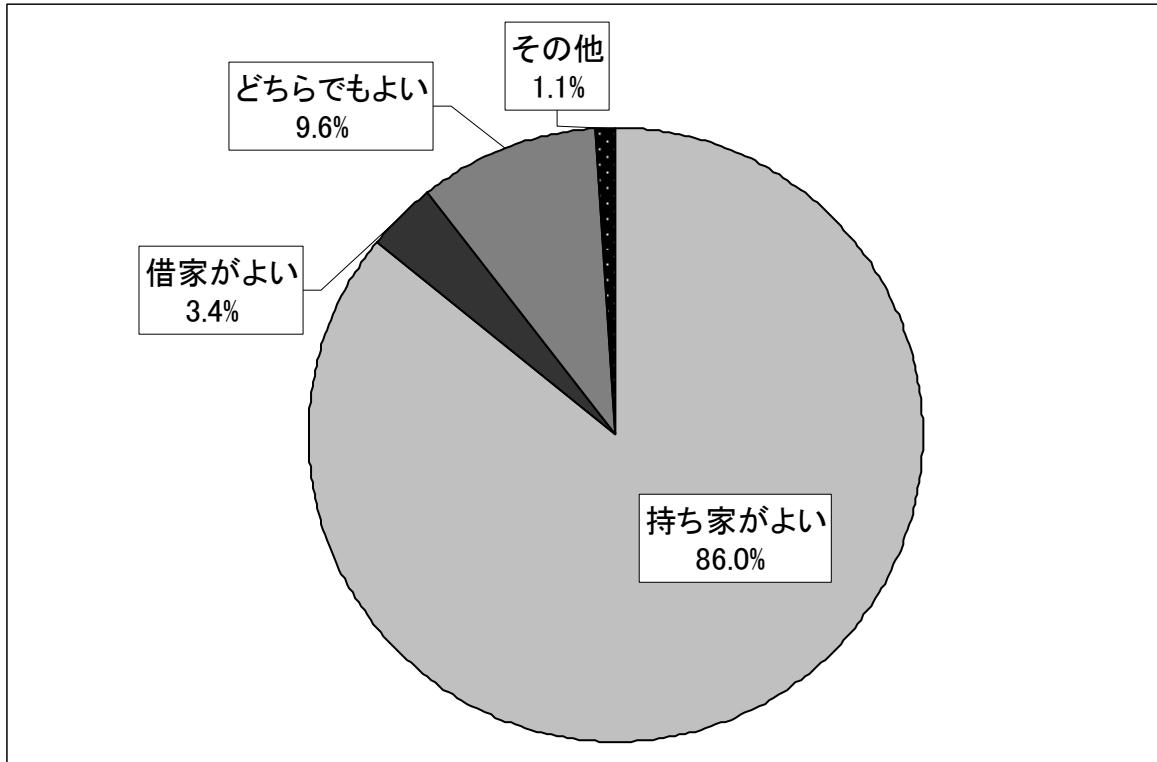
全 体



現在住んでいる住宅について聞いたところ、「持ち家の一戸建て」とする割合が 79.8%と最も高く、「借家の共同住宅（賃貸マンションや賃貸アパートなど）」とする割合が 7.9%、「借家の一戸建て」とする割合が 5.1%、などとなっている。

問 2 あなたは、これから自分が住む住宅としては、持ち家と借家のどちらがよいと思いますか。(回答は1つ)

全 体

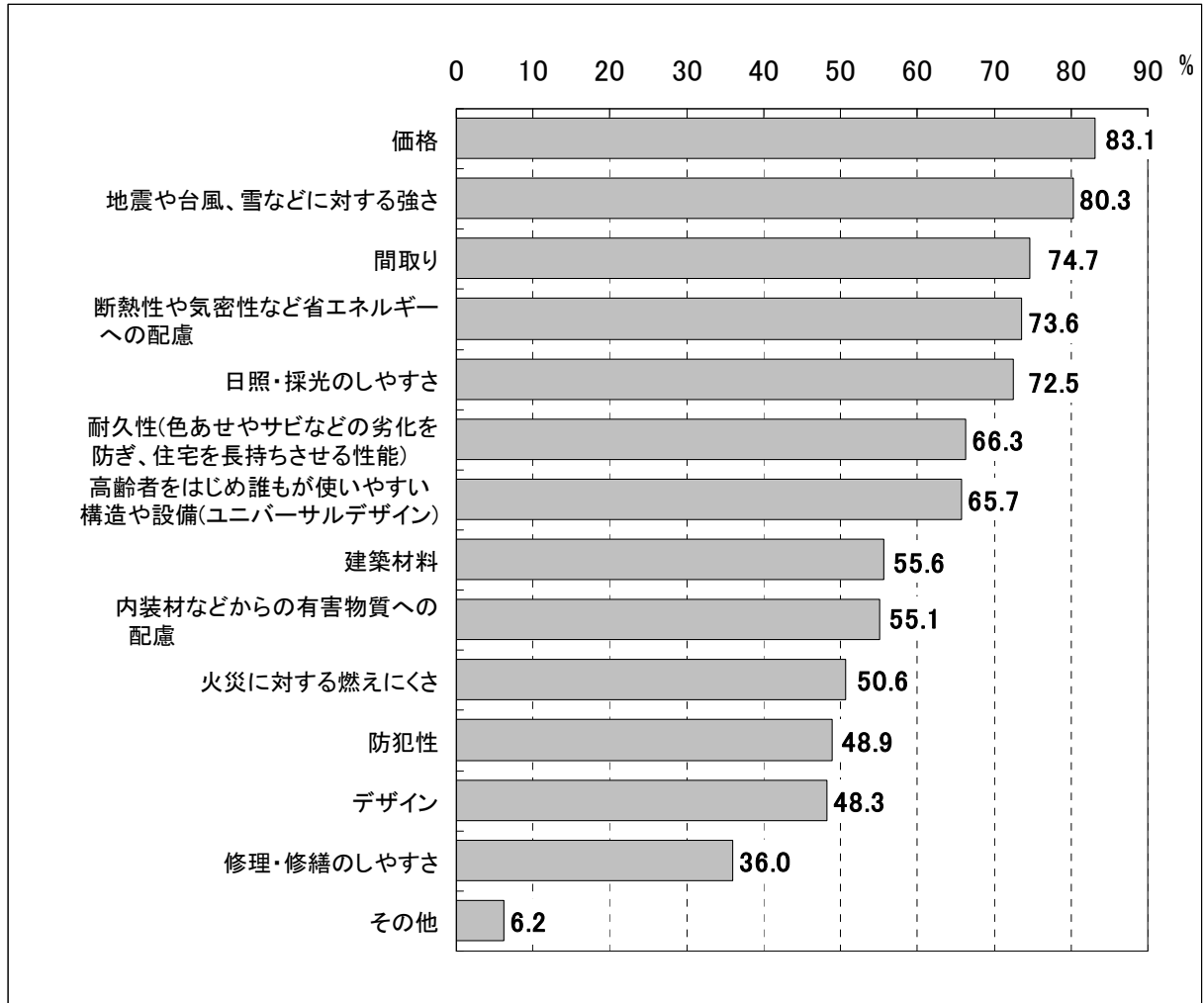


これから自分が住む住宅として、持ち家と借家のどちらがよいか聞いたところ、「持ち家がよい」とする割合が 86.0%と最も高く、「どちらでもよい」とする割合が 9.6%、「借家がよい」とする割合が 3.4%、などとなっている。

これから住む家として「持ち家がよい」と答えた方が、8割を超えており、県民の持ち家志向の高さが分かります。

問3 あなたが、もし、新たに住宅を取得するとしたら、どのようなことを重視しますか。(回答はいくつでも)

全 体

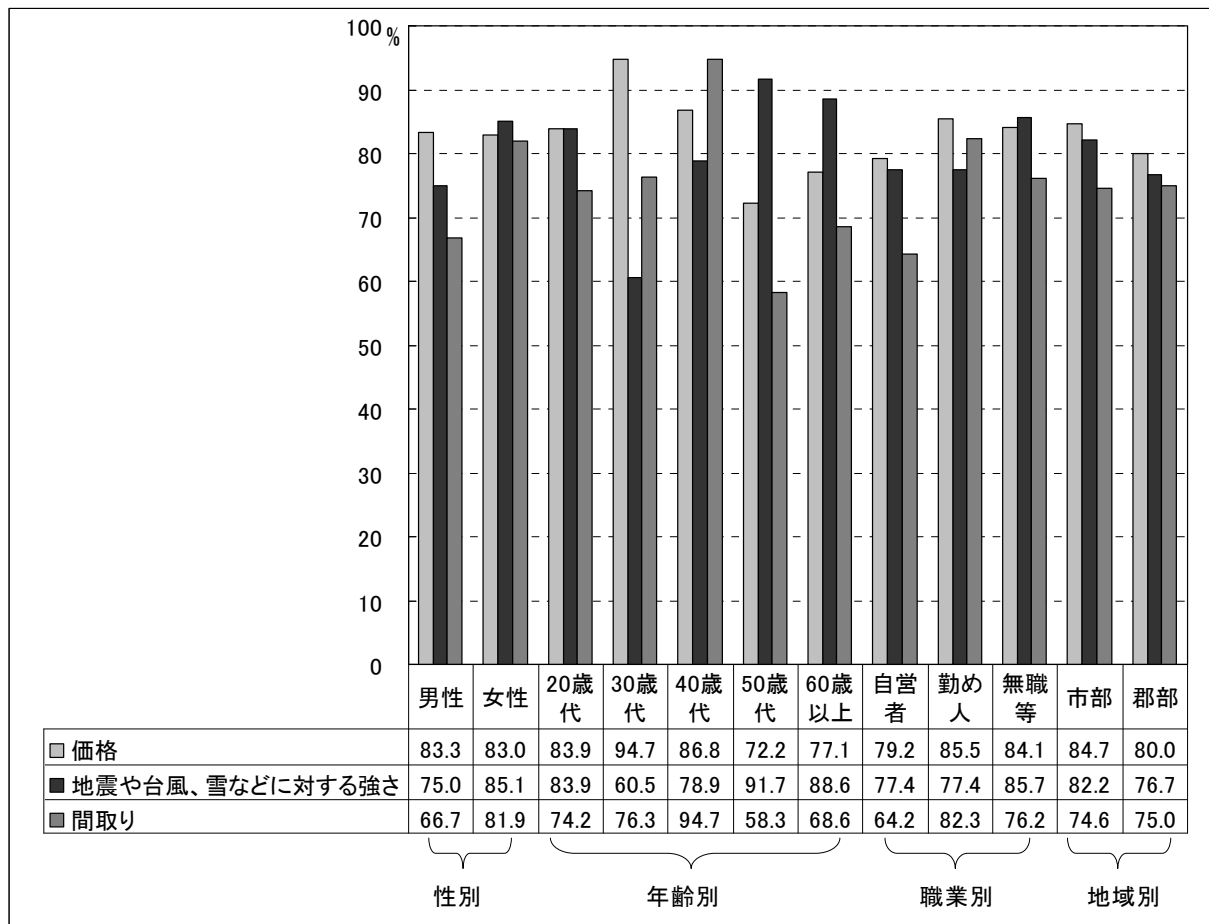


もし、新たに住宅を取得するとしたら、どのようなことを重視するか聞いたところ、複数回答で「価格」とする割合が83.1%と最も高く、以下、「地震や台風、雪などに対する強さ」(80.3%)、「間取り」(74.7%)などの順となっている。

住宅を取得する際に重視することは、「価格」と「地震や台風、雪などに対する強さ」が8割を超えており、次いで、「間取り」、「省エネルギーへの配慮」、「日照・採光のしやすさ」が7割を超えています。このことは、「価格」を重視しながらも、本県の気候にあった「強さ」、「暖かさ」、「間取り」などに配慮した住宅を求めていることが分かります。

また、「修理・修繕のしやすさ」を重視すると答えた方が、最も少なかったのに対し、7割近い方が、「耐久性」を重視すると答えており、メンテナンスにあまり経費のかからない「耐久性」の高い住宅を求める傾向にあると考えられます。

属性別（上位3項目）

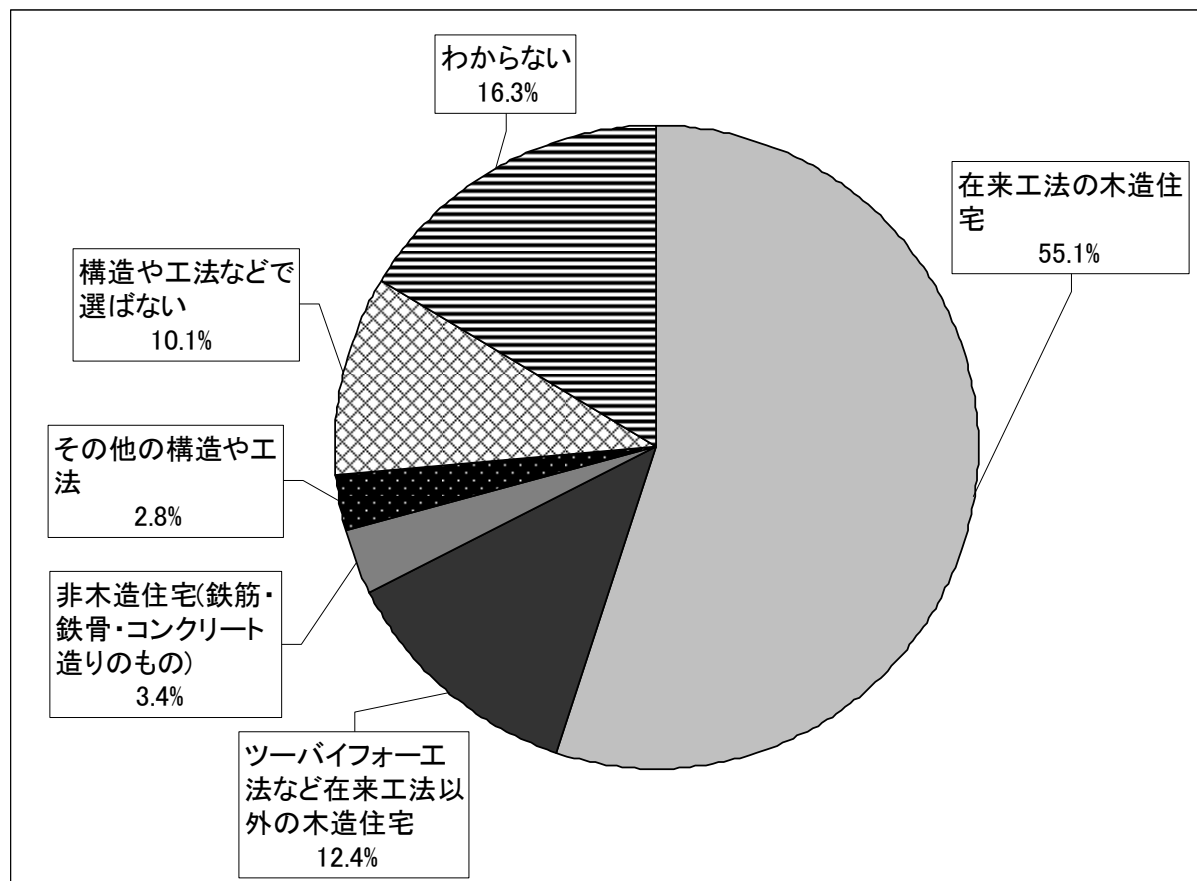


属性別上位3項目では、性別で、「価格」とする割合が男性、女性でほぼ同じであるのに対し、「地震や台風、雪などに対する強さ」、「間取り」とする割合が女性で高くなっている。

年齢別では、「価格」とする割合が20歳代から40歳代で、「地震や台風、雪などに対する強さ」とする割合が50歳以上で、「間取り」とする割合が40歳代で高くなっている。

問 4 あなたが、もし、新たに住宅を取得するとしたら、どのような構造や工法を選びますか。(回答は1つ)

全 体

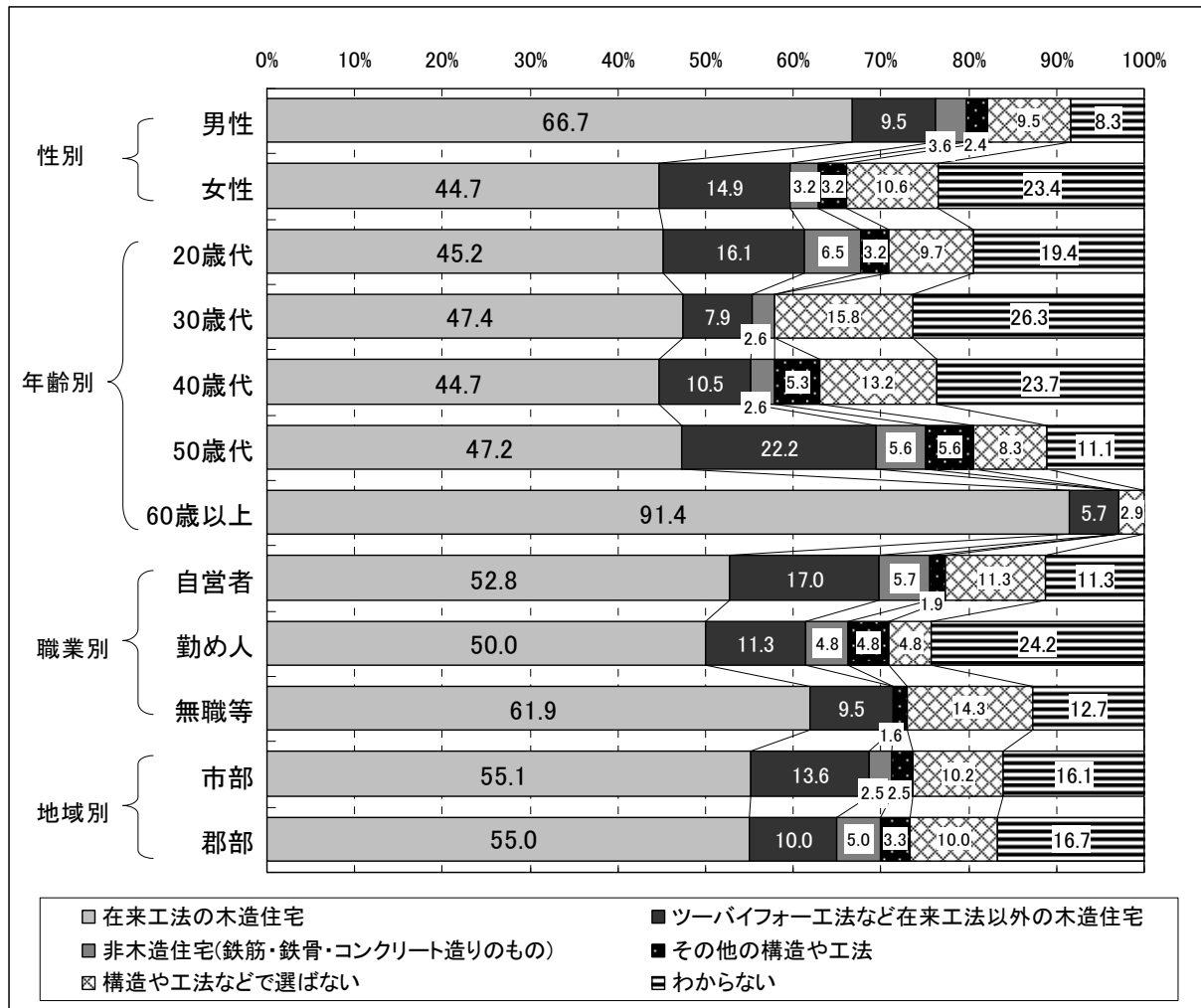


もし、新たに住宅を取得するとしたら、どのような構造や工法を選ぶか聞いたところ、「在来工法の木造住宅」とする割合が55.1%と最も高く、「ツーバイフォー工法など
在来工法以外の木造住宅」とする割合が12.4%、「構造や工法などで選ばない」とする割合が10.1%などとなっている。

7割近い方が、「在来工法の木造住宅」、「ツーバイフォー工法など
在来工法以外の木造住宅」などの木造住宅を選ぶと回答しています。木造住宅を選んだ方が多いという結果は、実際に建築された住宅の数を表す、工法別の住宅着工件数^(※)とおおむね同じものとなっています。

(※) 青森県の住宅着工統計によると、平成20年の県内の新設住宅着工件数は、6,457戸(工法別内訳：木造住宅4,942戸(76.5%)、非木造住宅1,515戸(23.5%))となっています。

属性別



属性別では、「在来工法の木造住宅」とする割合が、性別では男性、職業別では無職等で高く、年齢別では60歳以上で特に高くなっている。

また、「在来工法の木造住宅」、「ツーバイフォー工法など非木造住宅」とする割合を合わせても、同様の結果となっている。

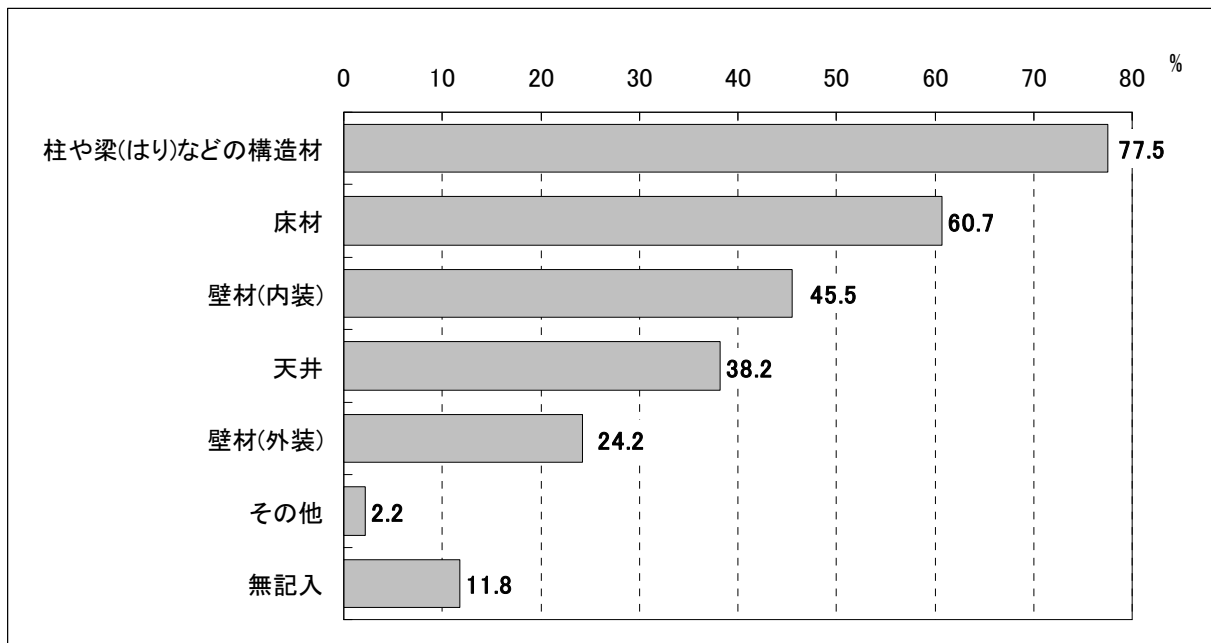
「わからない」とする割合が、性別では女性、年齢別では30歳代と40歳代、職業別では勤め人で高くなっている。

「構造や工法で選ばない」、「わからない」と答えた方が、女性や20～40歳代に多い傾向であることは、問3の属性別結果などから、これらの世代の方が構造や工法よりも価格や間取りなどを重視しているのではないかと考えられます。

今後は、若い世代の方に木造住宅の良さを知っていただくためにも、各工法の特徴や魅力について、十分な説明を行っていく必要があります。

問 4-1 問 4 で (1)、(2) と答えた方は、木材を住宅のどこに重点的に使用したいですか。
(3) ~ (6) と答えた方は、木材を住宅のどこに使用したいと思いませんか。
(回答はいくつでも)

全 体



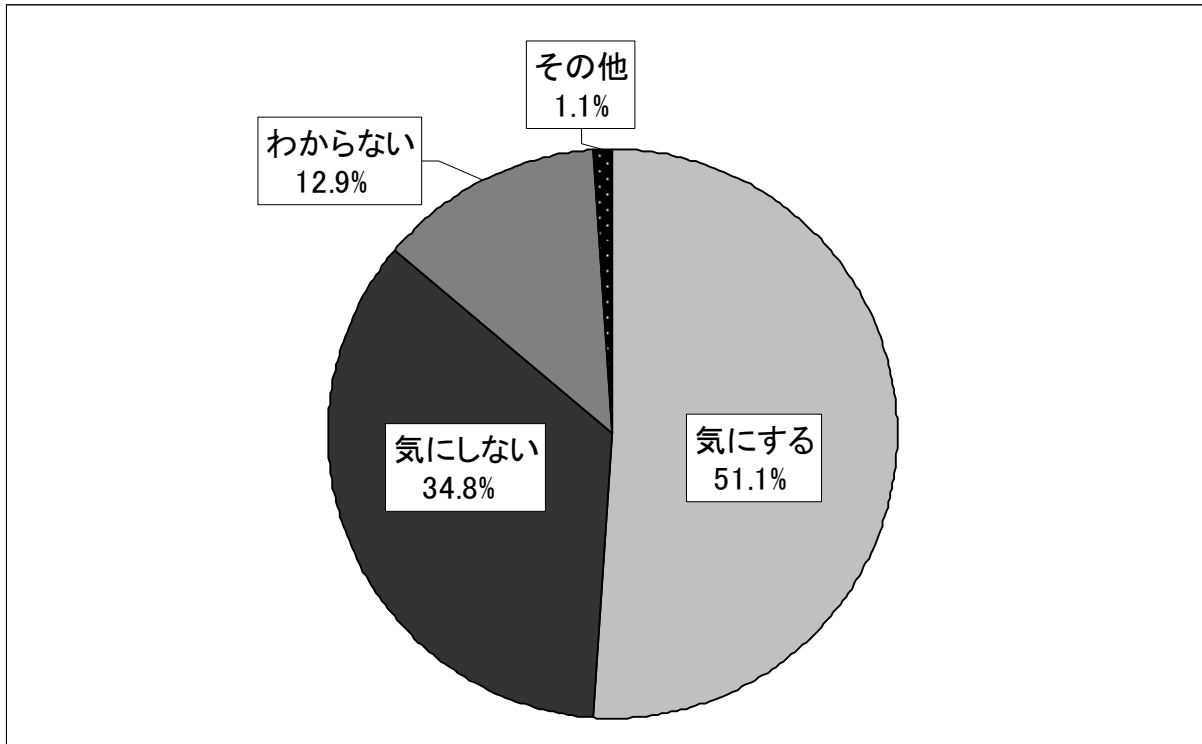
問4の新たに住宅を取得するとしたら、どのような構造や工法を選ぶかという質問で、「在来工法の木造住宅」、「ツーバイフォー工法など由来工法以外の木造住宅」と答えた方には、木材を住宅のどこに重点的に使用したいか、また、問4で「木造住宅」を選ばなかった方には、木材を住宅のどこに使用したいか聞いたところ、複数回答で「柱や梁（はり）などの構造材」とする割合が77.5%と最も高く、以下、「床材」（60.7%）、「壁材（内装）」（45.5%）などの順となっている。

多くの方が、「柱や梁（はり）などの構造材」で木材を使用したいと考えているという結果になりました。

今後は、構造材としての木材の特徴を発信していくとともに、木材を適材適所で使用していくことが大切であることから、消費者志向にあった床材や壁材（内装）などの製品を供給していくことが必要となります。

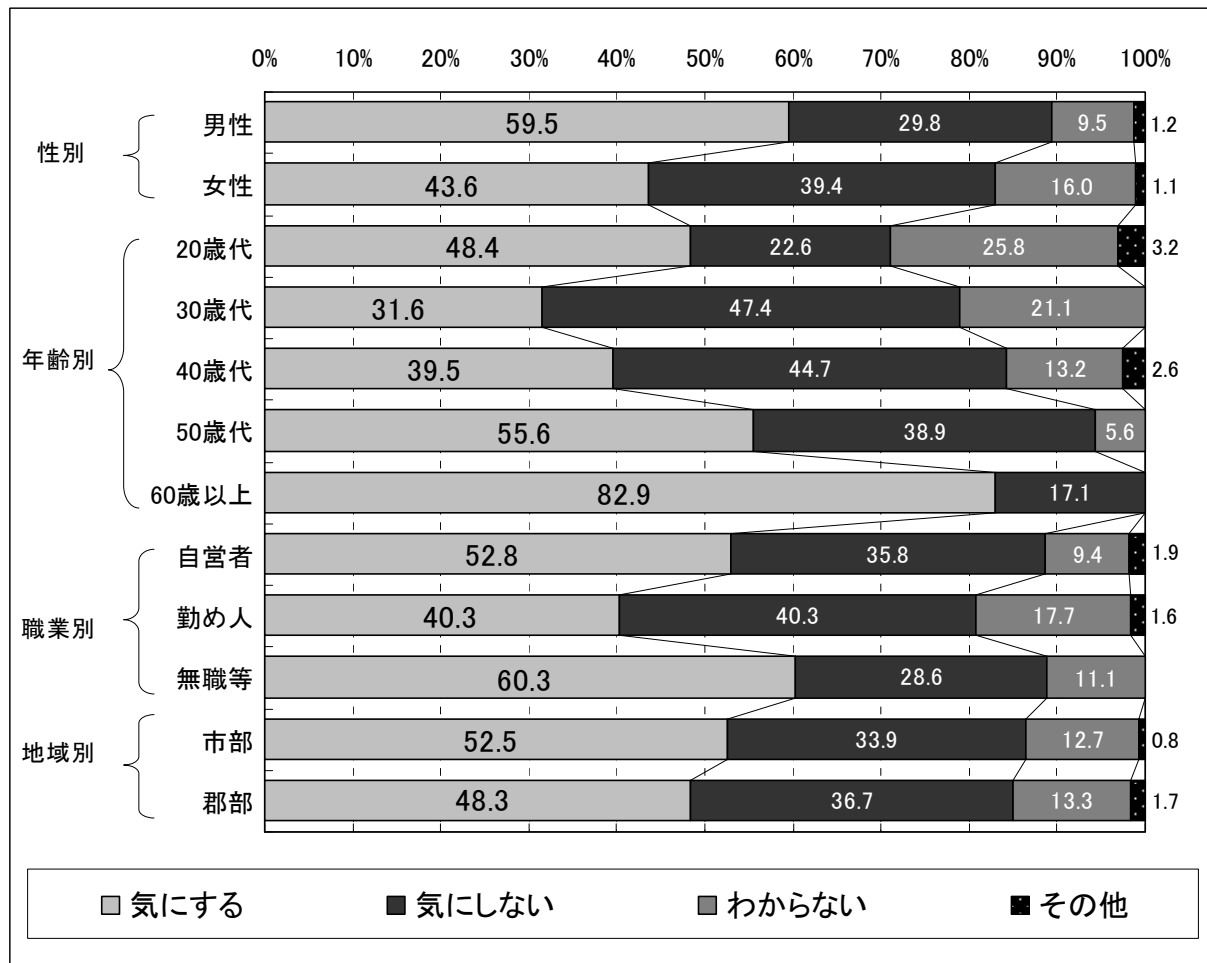
問5 あなたは、住宅を建築もしくは増改築する際に使用する木材の産地を気にしますか。(回答は1つ)

全 体



住宅を建築もしくは増改築する際に使用する木材の産地を気にするか聞いたところ、「気にする」とする割合が51.1%と最も高く、「気にしない」とする割合が34.8%、「わからない」とする割合が12.9%などとなっている。

属性別



属性別では、「気にする」とする割合が、性別では男性、職業別では無職等で高くなっており、年齢別では60歳以上で特に高くなっている。

また、「気にしない」とする割合が、性別では女性、年齢別では30歳代と40歳代、職業別では勤め人で高くなっている。

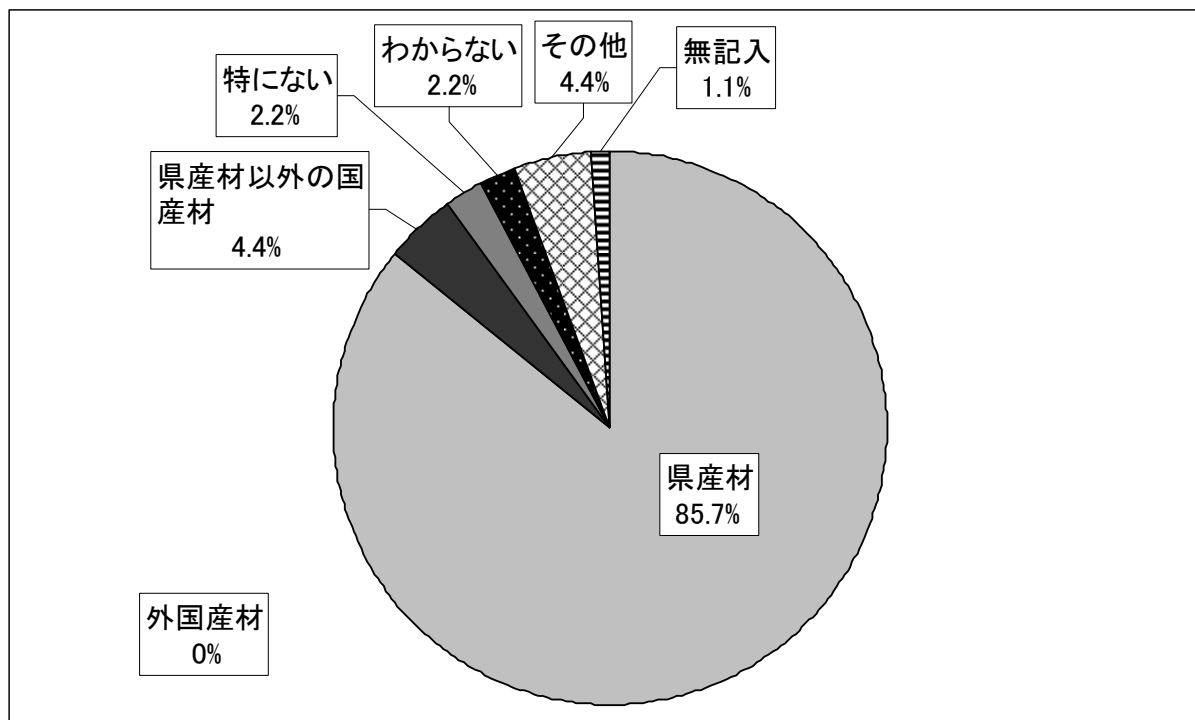
ほぼ半数の方が、木材の産地を「気にする」と回答しています。その一方で、「気にしない」、「わからない」と答えた方を合わせると約半数いることが分かりました。

「気にしない」と答えた方は、女性や30～40歳代に多いことから、問3の属性別結果などにより、これらの世代の方が木材の産地よりも価格を重視する傾向にあるのではないかとことがうかがわれます。

今後、食品などと同様に、木材についても産地を気にしていただけるよう、安全・安心な県産材のPRをより一層推進していく必要があります。

問5-1 問5で「(1) 気にする」と答えた方にお聞きします。
木材は、どこの産地のものを使用したいと思えますか。(回答は1つ)

全 体



問5の住宅を建築もしくは増改築する際に使用する木材の産地を気にするかという質問で、「気にする」と答えた方に、木材はどこの産地のものを使用したいか聞いたところ、「県産材」とする割合が85.7%と最も高く、「県産材以外の国産材」とする割合が4.4%、「外国産材」とする割合が0%となどなっている。

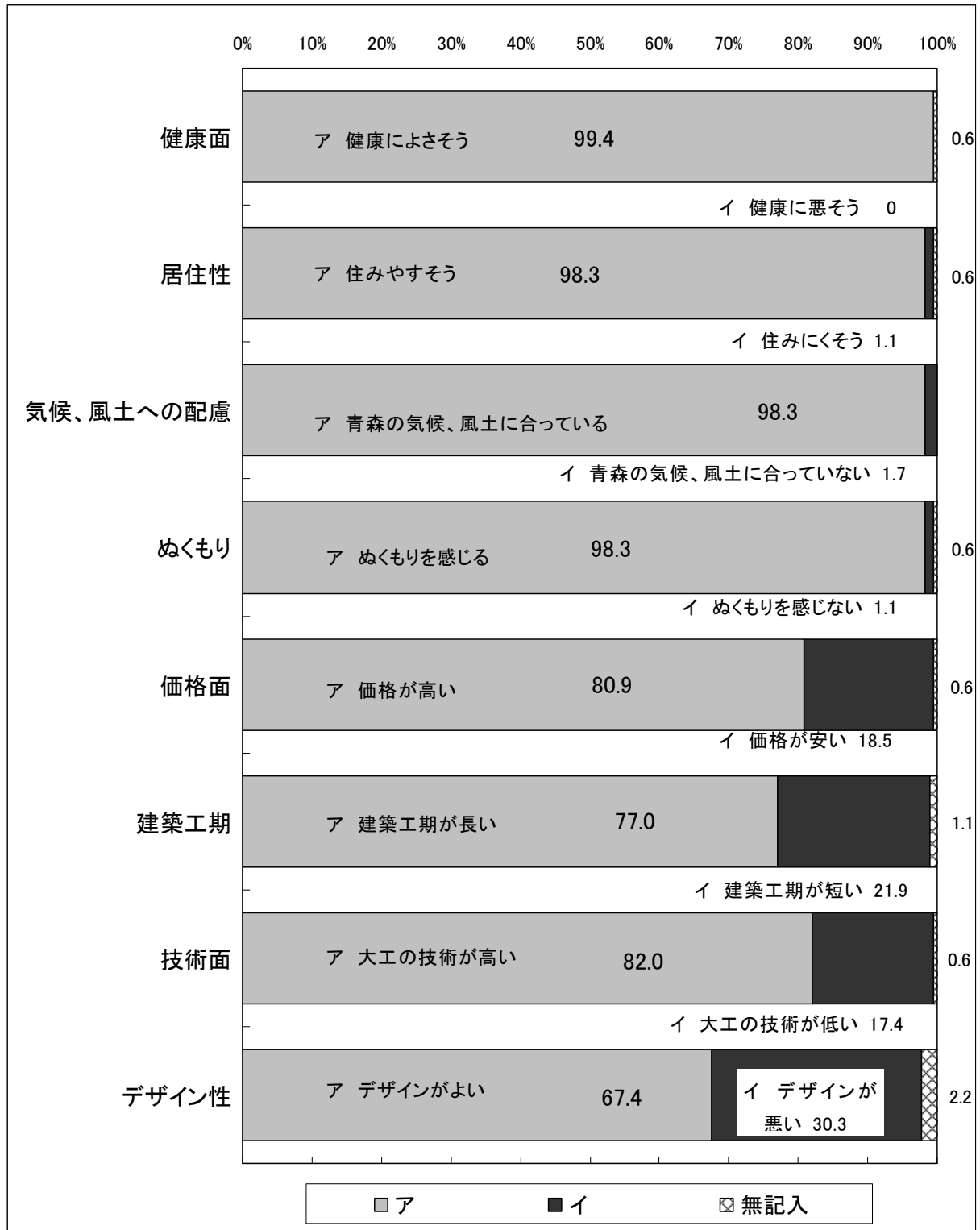
本県では、森林・林業関係団体が中心となり、安心して県産材を利用するための仕組みとして「青森県産材認証制度」を平成18年に創設し、県産材の地産地消に取り組んでいます。

木材の産地を気にすると答えた方の多くが、県産材を使用したいとの考えを持っていることから、今後は産地表示やトレーサビリティ^(※)など「青森県産材認証制度」の拡充を進め、より一層、安全・安心な県産材の利用拡大に取り組んでいくことが必要となります。

(※) トレーサビリティとは、トレース（追跡する）とアビリティ（可能）を合わせた造語です。日本語では「追跡可能性」と訳され、対象とする製品の原料が生産された場所や加工・流通の履歴を明確にし、その製品がどこから来てどこへ行ったかを分かるようにするものです。

問6 県産材を使った木造住宅のイメージはどのようなものですか。
 (回答は、項目ごとにア・イのいずれかを選んでください。)

全 体



県産材を使った木造住宅のイメージについて、8つの項目ごとに質問した。

健康面では、「健康によさそう」とする割合が99.4%に対し、「健康に悪そう」とする割合が0%。

居住性では、「住みやすそう」とする割合が98.3%に対し、「住みにくそう」とする割合が1.1%。

気候、風土への配慮では、「青森の気候、風土に合っている」とする割合が98.3%に対し、「青森の気候、風土に合っていない」とする割合が1.7%。

ぬくもりでは、「ぬくもりを感じる」とする割合が98.3%に対し、「ぬくもりを感じない」とする割合が1.1%。

価格面では、「価格が高い」とする割合が80.9%に対し、「価格が安い」とする割合が18.5%。

建築工期では、「建築工期が長い」とする割合が77.0%に対し、「建築工期が短い」とする割合が21.9%。

技術面では、「大工の技術が高い」とする割合が82.0%に対し、「大工の技術が低い」とする割合が17.4%。

デザイン性では、「デザインがよい」とする割合が67.4%に対し、「デザインが悪い」とする割合が30.3%となっている。

また、「その他」のイメージが18.0%あり、その中には、「安心感がある」、「香りが良い」、「地元貢献している」、「地域の活性化に良い」などの回答があった。

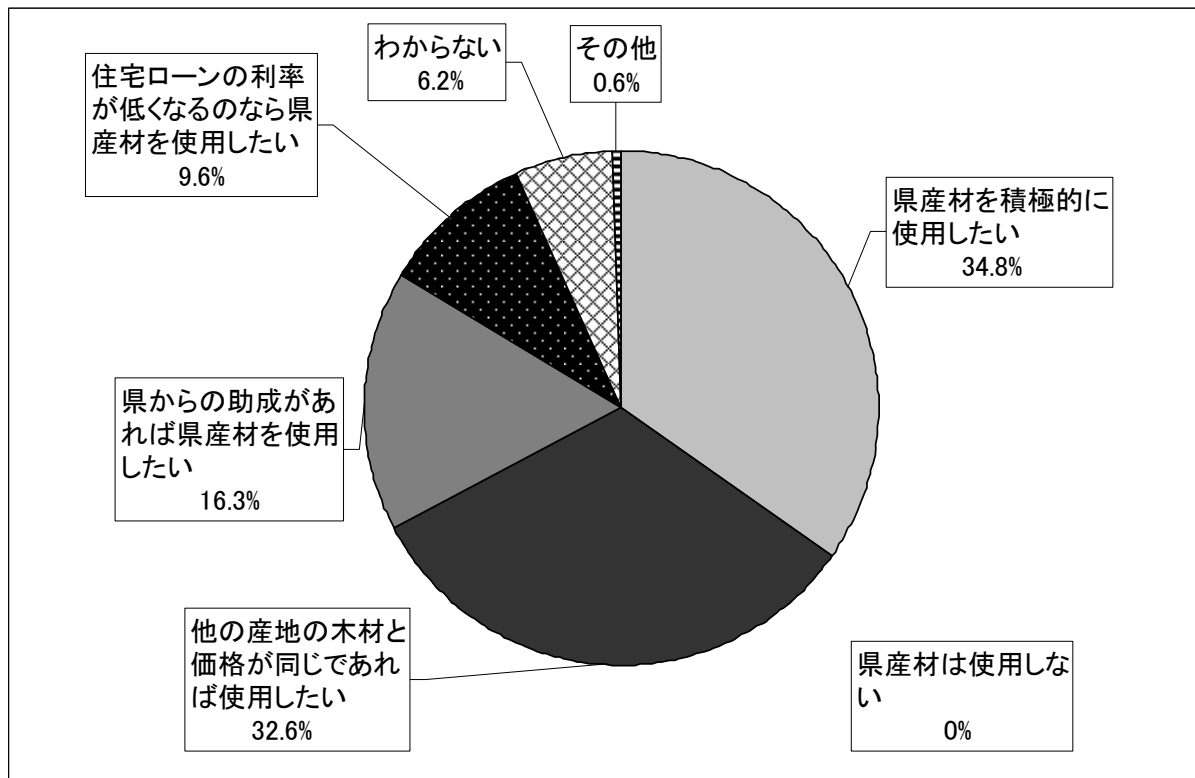
県産材を使った木造住宅は、「健康によさそう」、「住みやすそう」、「ぬくもりを感じる」など多くの方が良いイメージを持っています。

しかしながら、「価格が高い」、「建築工期が長い」など建築経費が高くなるイメージを持っていることが分かりました。

「価格が高い」などイメージについては、詳細な明細書を示すなど、大工や工務店などが施主の理解を得られるように十分説明できるようにする必要があります。

問7 あなたが、もし、新たに住宅を取得するとしたら、県産材を使おうと思いますか。(回答は1つ)

全 体



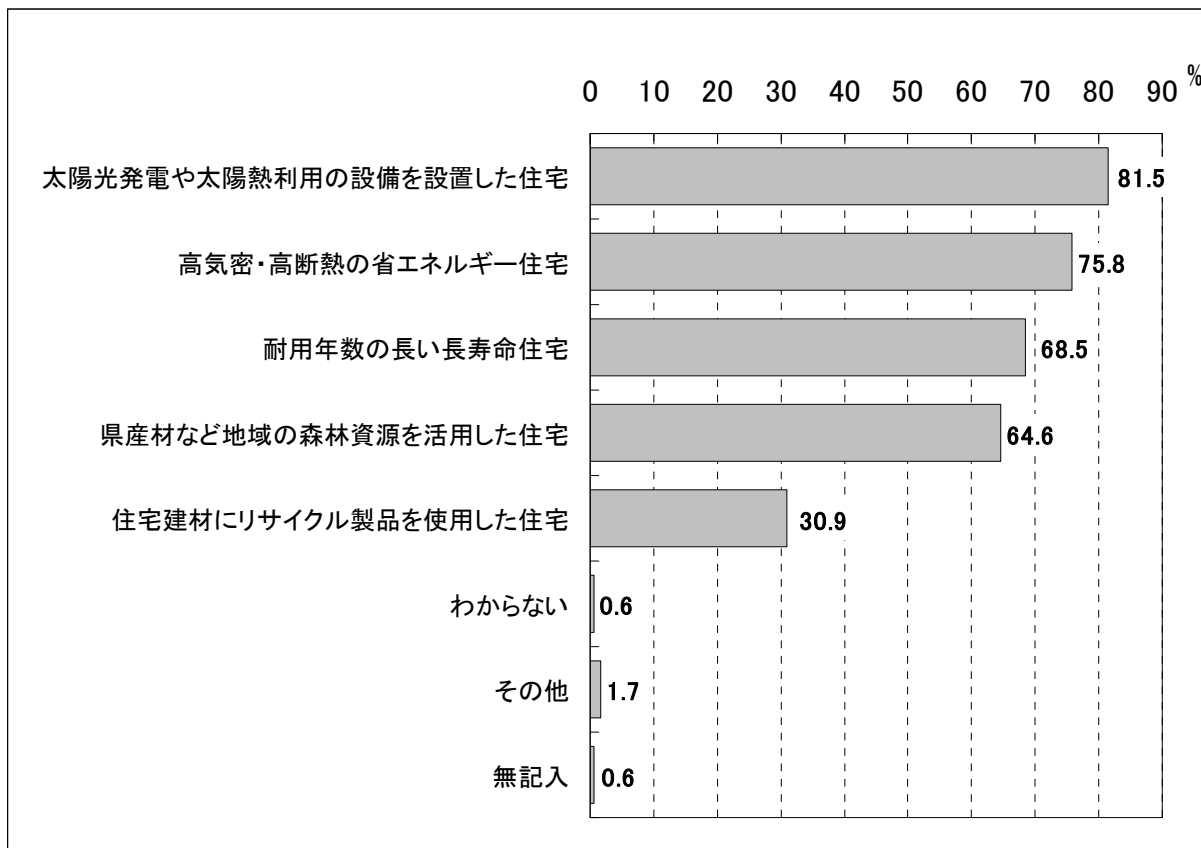
もし、新たに住宅を取得するとしたら、県産材を使いたいと思うか聞いたところ、「県産材を積極的に使用したい」とする割合が34.8%と最も高く、「他の産地の木材と価格が同じであれば使用したい」とする割合が32.6%、「県からの助成があれば県産材を使用したい」とする割合が16.3%などとなっている。

約3割の方が、「県産材を積極的に使用したい」と考えており、さらに「他の産地の木材と同じ価格であれば」、「県からの助成があれば」、「住宅ローンの利率が低くなるのであれば」使用したいとの回答を加えると、9割近い方が県産材を使用したいと考えていることが分かりました。

住宅建築における県産材使用率を上げるためには、「他の産地の木材と同じ価格であれば」、「県からの助成があれば」、「住宅ローンの利率が低くなるのであれば」使用したいと考えている方に対し、県産材を使用した場合の金銭的負担が大きくなるような取り組みが必要となります。

問8 地球温暖化に配慮した住宅とするために、どのような住宅とすべきだと思いますか。(回答はいくつでも)

全 体



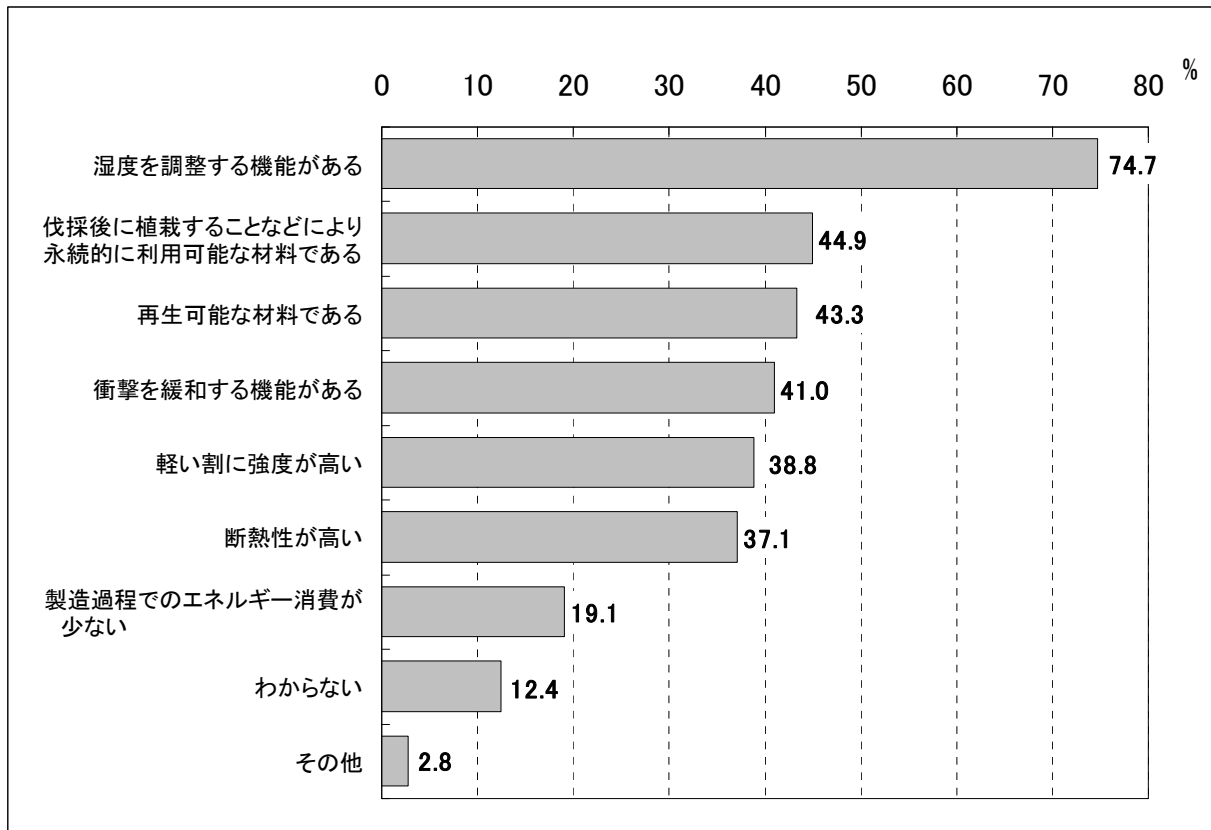
地球温暖化に配慮した住宅とするために、どのような住宅とすべきか聞いたところ、複数回答で「太陽光発電や太陽熱利用の設備を設置した住宅」とする割合が81.5%と最も高く、以下、「高気密・高断熱の省エネルギー住宅」(75.8%)、「耐用年数の長い長寿命住宅」(68.5%)、「県産材など地域の森林資源を活用した住宅」(64.6%)などの順となっている。

「県産材など地域の森林資源を活用した住宅」が地球温暖化の防止に寄与することは、「太陽光発電などを設置した住宅」や「高気密・高断熱の省エネルギー住宅」などに比べ、あまり知られていないことが明らかとなりました。

地域の森林資源を活用した住宅は、他の産地の木材を使用する場合に比べ、木材を輸送する際に発生するCO₂を抑えることができ、さらに地域の森林整備が進むことによるCO₂吸収量の増加が見込まれます。今後は、「地域の森林資源を活用した住宅」を、地球温暖化に配慮した住宅としてPRしていく必要があります。

問9 建築資材としての木材の魅力について、あなたが知っていることを全てお答えください。(回答はいくつでも)

全 体



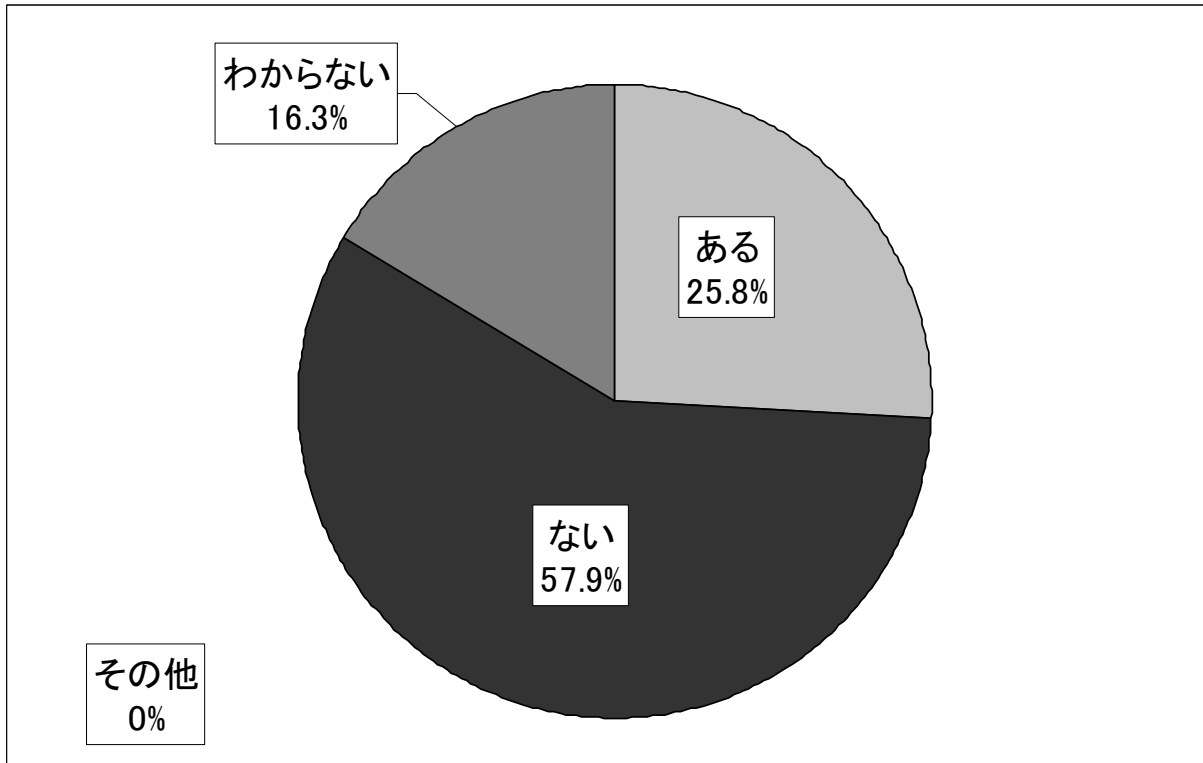
建築資材としての木材の魅力について、知っていることを聞いたところ、複数回答で「湿度を調整する機能がある」とする割合が74.7%と最も高く、以下、「伐採後に植栽することなどにより永続的に利用可能な材料である」(44.9%)、「再生可能な材料である」(43.3%)、「衝撃を緩和する機能がある」(41.0%)などの順となっている。

「湿度を調整する機能」が最も高い結果となりました。これは、古くから、大切な着物などを湿気から守り保管するには、桐で作った箆筒（たんす）が最適とされてきたことなどから、広く知られてきたものと考えます。

今後は、環境に優しい建築資材として上記グラフに示されている様々な機能を持つ住宅の魅力についても積極的に発信していく必要があります。

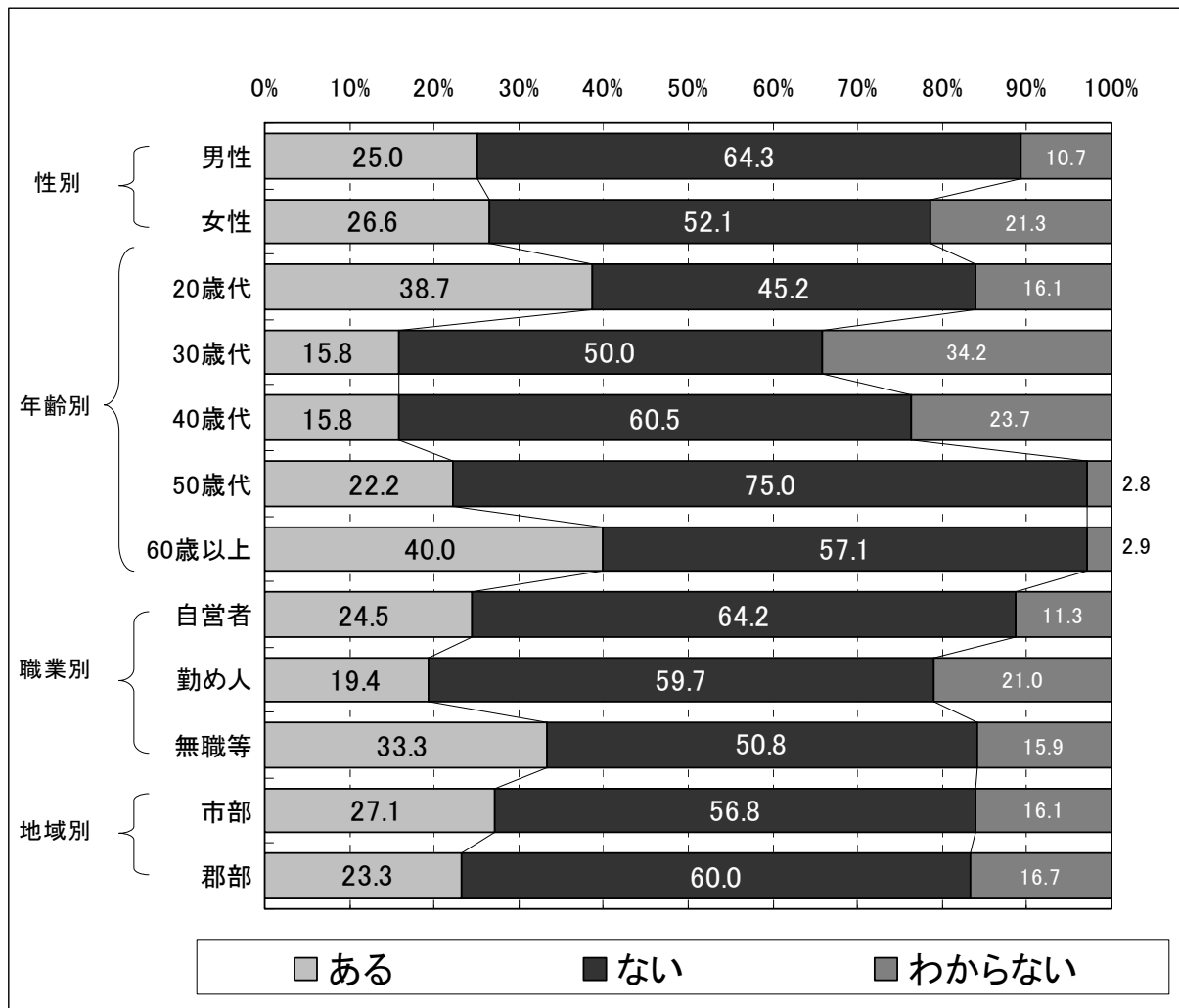
問10 建築用の資材として、木材によくないイメージがありますか。(回答は1つ)

全 体



建築用の資材として、木材によくないイメージがあるか聞いたところ、「ない」とする割合が57.9%と最も高く、「ある」とする割合が25.8%、「わからない」とする割合が16.3%となっている。

属性別



属性別では、木材によくないイメージが「ある」とする割合が、年齢別では20歳代と60歳以上、職業別では無職等で高くなっている。

また、「ない」とする割合が、年齢別では50歳代、職業別では自営者で特に高くなっている。

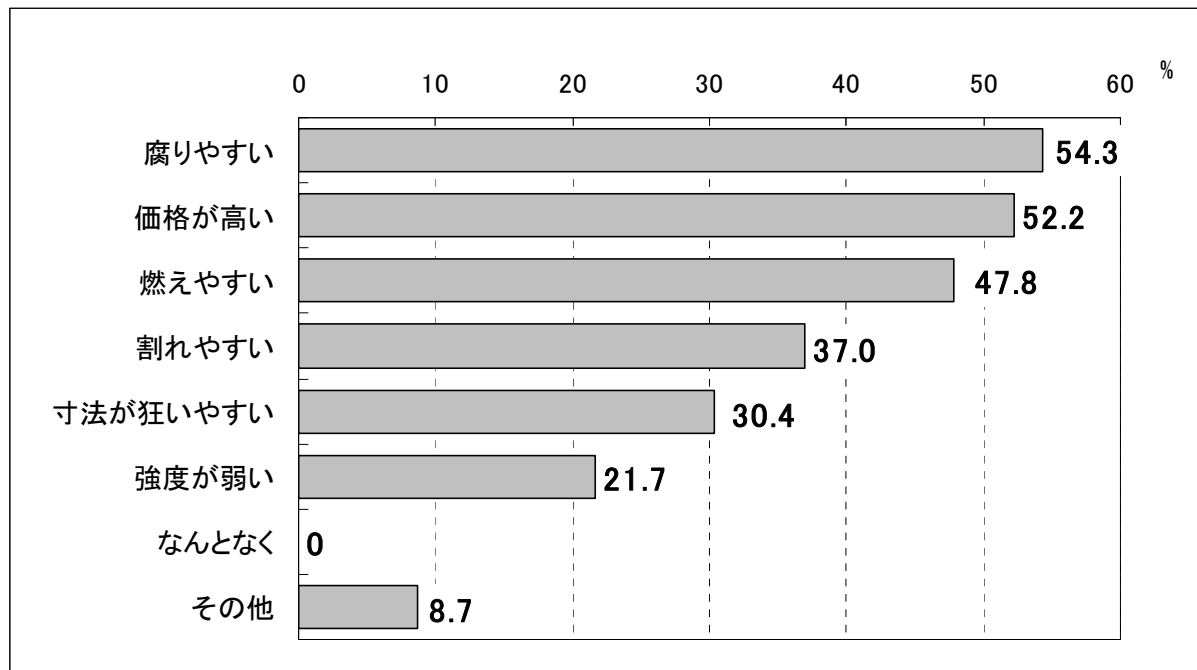
多くの方が木材に対してよいイメージを持っていることが分かりました。その一方で、20歳代と60歳以上で、木材に良くないイメージがあると回答した方の割合が高くなっています。

特に、60歳以上の方については、問10-1の属性別結果などから、「腐る」、「割れる」、「狂う」などの木材の欠点が認識されている結果だと考えられます。

今後は、木材の持つ特性を広く理解してもらえよう取り組みを行う必要があります。

問10-1 問10で「(1) ある」と答えた方にお聞きします。
木材のよくないイメージは、どんなことですか。(回答はいくつでも)

全 体

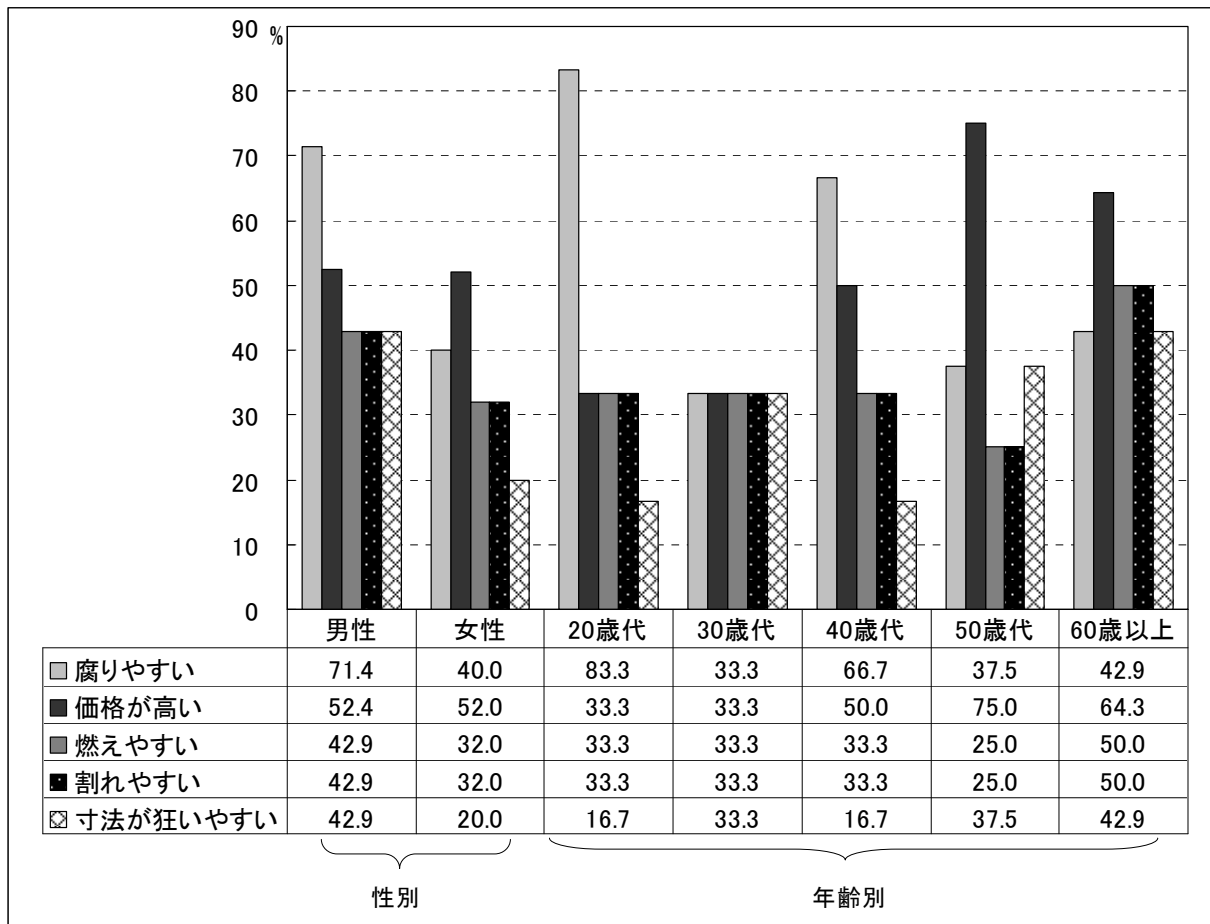


問10の建築用の資材として木材によくないイメージがあるかという質問で、「ある」と答えた方に、木材のよくないイメージはどんなことか聞いたところ、複数回答で「腐りやすい」とする割合が54.3%と最も高く、以下、「価格が高い」(52.2%)、「燃えやすい」(47.8%)などの順となっている。

木材は、生物由来の資材のため、「腐る」、「割れる」、「狂う」などの特徴がありますが、十分に乾燥するなどの的確な処理を行うことで、その欠点を少なくすることが可能です。さらに、スギ、ヒバ、アカマツなど樹種ごとの材質特性に応じ、適材適所に利用することが重要です。

今後は、木材の良い面、悪い面について十分に説明を行い、理解を深めたうえで、木材を使ってもらえるような取り組みを行う必要があります。

属性別（上位 5 項目）

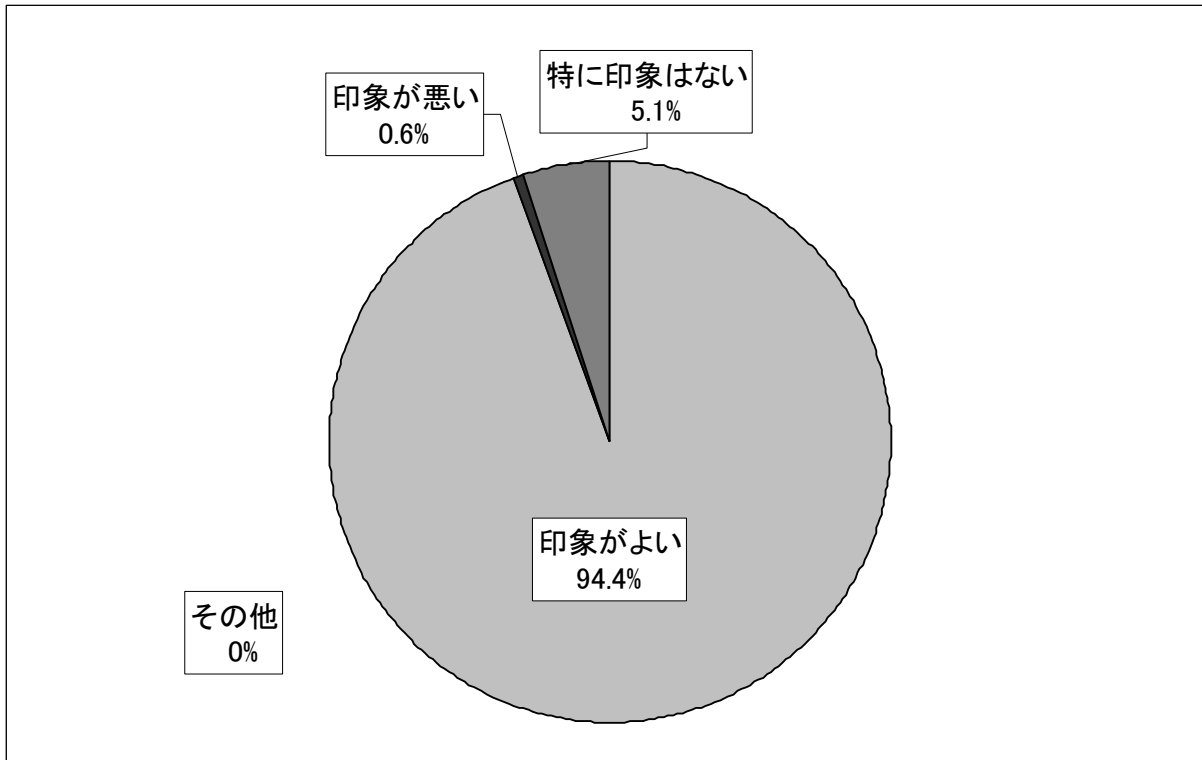


属性別上位 5 項目では、性別で、「腐りやすい」とする割合が男性で高くなっている。

年齢別では、「腐りやすい」とする割合が20歳代で、「価格が高い」とする割合が50歳代で特に高くなっており、「燃えやすい」、「割れやすい」、「寸法が狂いやすい」とする割合が60歳以上で高くなっている。

問11 木材を利用した施設は、どのような印象ですか。(回答は1つ)

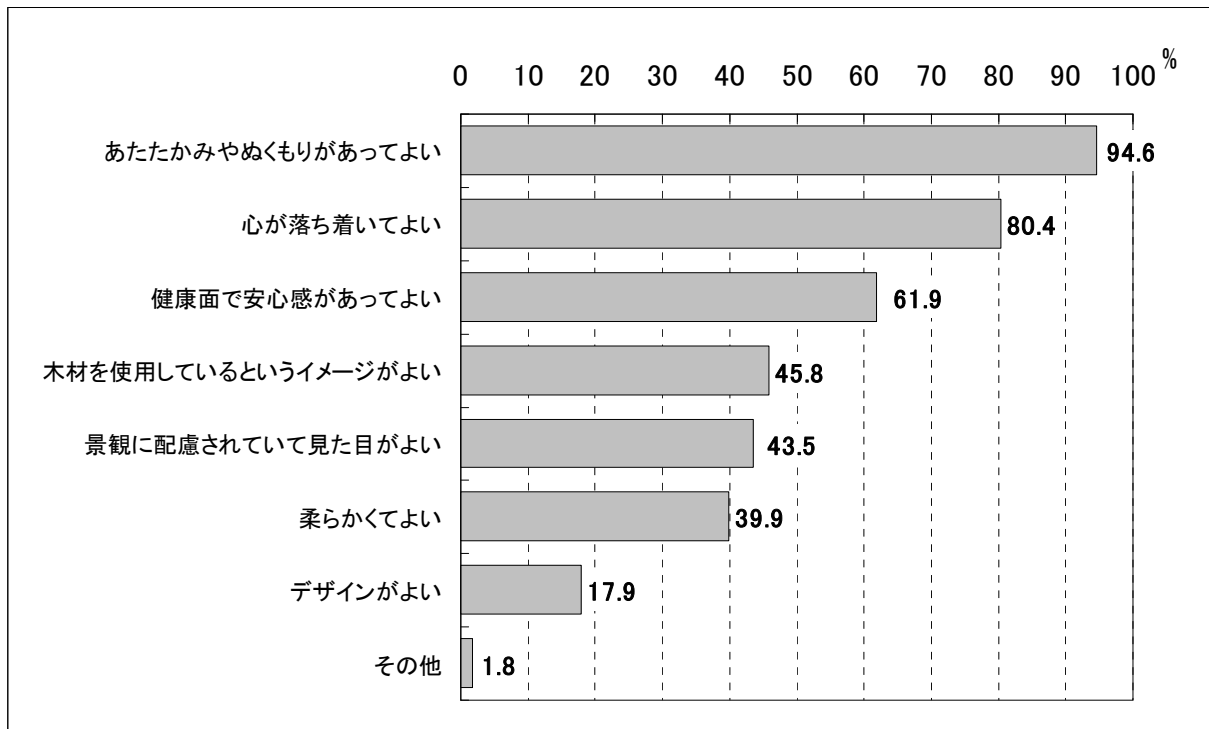
全 体



木材を利用した施設は、どのような印象か聞いたところ、「印象がよい」とする割合が94.4%と最も高く、「特に印象はない」とする割合が5.1%、「印象が悪い」とする割合が0.6%となっている。

問11-1 問11で「(1) 印象がよい」と答えた方にお聞きします。
印象がよい理由は、どのようなものですか。(回答はいくつでも)

全 体



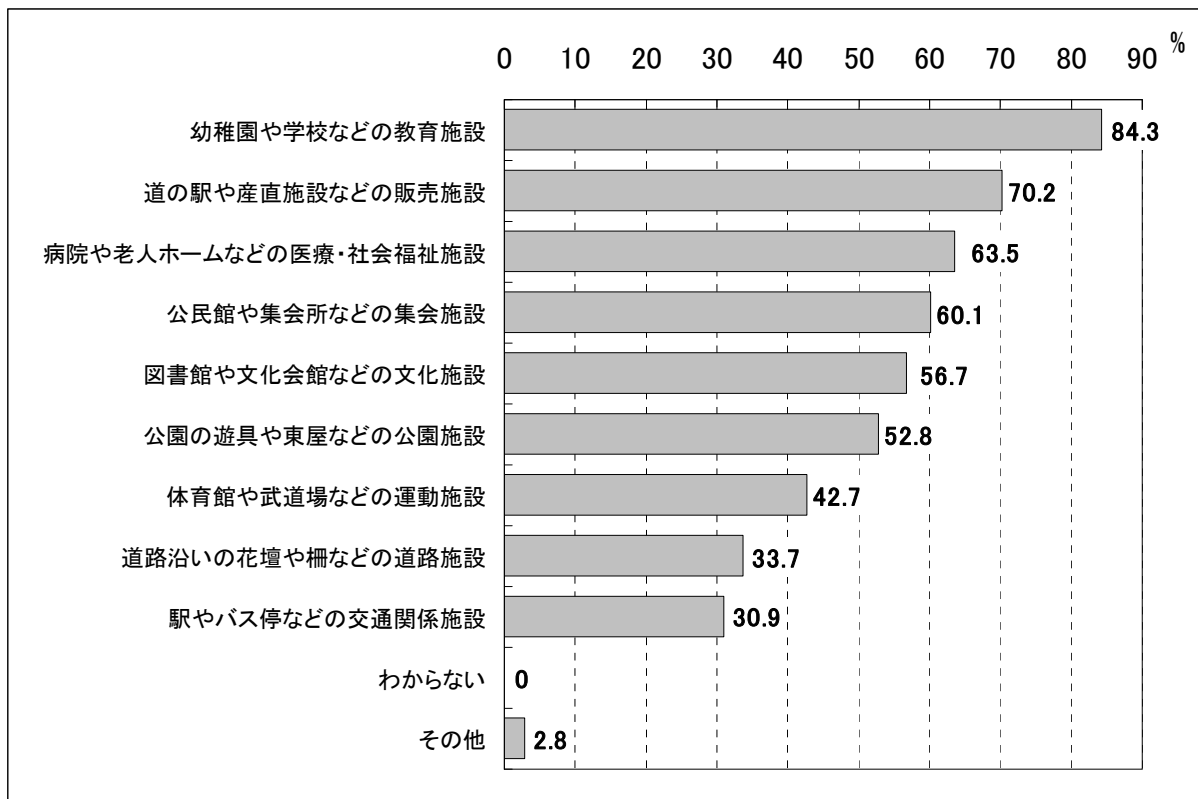
問11の木材を利用した施設はどのような印象かという質問で、「印象がよい」と答えた方に、その理由を聞いたところ、複数回答で「あたたかみやぬくもりがあってよい」とする割合が94.6%と最も高く、以下、「心が落ち着いてよい」(80.4%)、「健康面で安心感がある」(61.9%)などの順となっている。

木材を利用した施設については、9割を超える方が、印象がよいと感じており、その理由は、「あたたかみやぬくもりがあってよい」、「心が落ち着いてよい」など木材の持つ優しいイメージへの回答が多くありました。

このような印象を利用者側が持っているということ、事業者へも広めていく必要があるものと考えます。

問12 木材をどのような施設や場所で利用すればよいと思いますか。
(回答はいくつでも)

全 体



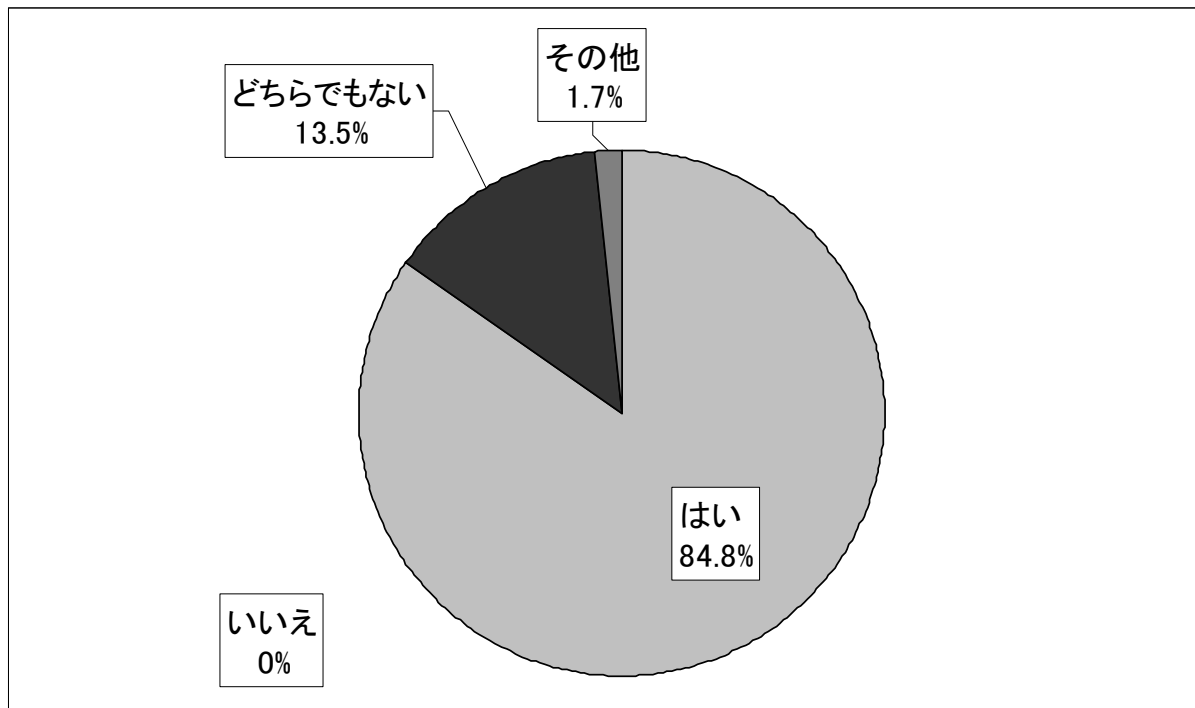
木材をどのような施設や場所で利用すればよいか聞いたところ、複数回答で「幼稚園や学校などの教育施設」とする割合が84.3%と最も高く、以下、「道の駅や産直施設などの販売施設」(70.2%)、「病院や老人ホームなどの医療・社会福祉施設」(63.5%)などの順となっている。

教育施設や産直施設などの販売施設、医療・社会福祉施設で木材を利用すればよいと考えている方が多く、これは、問11-1で、木造施設に対するよい印象の上位となった、「あたたかみやぬくもりがあってよい」、「心が落ち着いてよい」などとの関係性が高いものと考えられます。

今後は、教育施設や、産直施設などの販売施設、医療・社会福祉施設などを建築する場合には、木材の持つよいイメージを生かした施設となるよう事業者に対し働きかけるとともに、木材を利用した内装など建築事例を紹介していく必要があります。

問13 あなたは、木材を利用した施設が増えたらよいと思いますか。(回答は1つ)

全 体



木材を利用した施設が増えたらよいと思うか聞いたところ、「はい」とする割合が84.8%と最も高く、「どちらでもない」とする割合が13.5%、「いいえ」とする割合が0%などとなっている。

木材を利用した施設が増えたらよいと答えた方が多く、木材を利用した施設整備を望んでいることが分かりました。

木造による建築が効果的な施設については、事業者に対し、非木造の場合とのコスト比較や建築事例を紹介するなどして、木造化への働きかけを行っていく必要があります。

◎ 自由意見

問14 県産材を使用した木造住宅や木造施設について、ご意見、ご要望などがありましたら、ご自由にお書きください。

(- 別 記 -)

Ⅲ 県産材を使用した木造住宅や木造施設に関する意見、要望等について

今回のアンケートでは、116人の方から自由意見が寄せられました。その一部をご紹介します。

【掲載意見の内訳】

・ 県産材の使用について	9 件
・ 木造住宅、木造施設などについて	12 件
・ PRの方法について	12 件
・ 地産地消について	5 件
・ 資源の活用（確保）について	6 件
・ その他	4 件

県産材の使用について

- 県産材はその土地の気候で育っているのもので、その土地の気候・風土に合っていると思います。耐久性を考えてみても長いように感じます。
外国産の木材や他産地の木材との価格・品質の競合があると思いますが、使用する住宅が増えていけば良いのではないのでしょうか。(30歳代・自営者)
- 住宅展示場などで木材を使ったのを見ると素敵でいいなと思いますが、いざ自分の家をと考えると、後々のメンテナンスが大変なのではないか。汚れた時、水拭きできないのは困るなどと悩んでしまいます。
メンテナンスがしやすく価格も割安で、県などから何かしら県産材を使用する際の特典などがあればもっと使われるだろうと思います。(40歳代・無職等)
- 「あおり産木造住宅コンテスト」があるのを初めて知りました。作品集を見ると、なかなかセンスの良い住宅ばかりでびっくりしました。もっと県民に県産材を使うように住宅メーカーともタイアップしてはどうでしょうか。家全体でなくても、部分的には使いたいなと思います。(40歳代・無職等)
- 木造住宅や木造施設などは、見た目や健康面でも良いイメージがありますが、県産材などはやはり価格が気になります。住宅の場合は、他産地の物を使う場合と価格が変わらず、なおかつ助成や減税などあればとても良いと思います。
木の香りがする家というのは良いと思うので、おしゃれな古民家風の家などにしてアピールすると良いのではないかと思います。

施設などは県産材を使用するのが理想だと思いますが、価格を考慮して税金の無駄遣いにならないようにして欲しいです。(40歳代・無職等)

- 県産材と聞いて最初に思ったことは「高い」というイメージがありましたが、木材費用は、外材よりも2割程安くなると知り驚きました。「高い」「寒い」「湿気」など悪いイメージがありますが、それは思い込みで良い所は知られていません。
工務店では積極的にアピールをし、青森県の木材を県内外にも宣伝してはどうでしょうか。これから建築される公共施設など、例えば幼稚園や学校では遊具などや図書室で裸足になりゆっくり読書できる場などを取り入れ、小さい頃から木のぬくもりを感じ、触れてもらいたいです。
これから新築する家の場合、県産材を使用する面積に応じて県からの助成金や住宅ローンの利率が低くなるなどできるようにしたらどうでしょうか。
県産材で「環境に良く・健康になり・住みよい家(耐久性向上)」を目指してはいかがでしょうか。(30歳代・自営者)
- 小学生などの夏休みの宿題として、スギを使ったコンクールなどでアイデアを募集してみてもどうか。子どもの方が考え方が広いし、良い結果が出ると思う。
県産材を使うのなら、県の助成と定期的な家の検診があれば、とても助かる。お年寄りの一人暮らしの家は、ほとんどが木造で築20年以上、災害時、リスクが大きいし、一人でも長生きしてもらいたいと思うので。(20歳代・自営者)
- 県産材を使うことは、地産地消に適っておりぜひ進めてもらいたい。しかし、用途による樹種ということもあり、一通りではいけないのではないかと。構造材としてのヒバにしても、山を眺める限り資源は豊富とはいえない。
本県の木材は、寒冷地育ちなので強さという点では自信を持っていいと思う。建築過程でしっかり組み立てれば、地震にもかなり強いと思う。ただ、昨今の県産材使用奨励は杉材に代表されることが多く、そこが不安なところではないか。また、秋田の千年杉は千年持つと俗に言われるが、若齢木では強度の問題をつかれるのはやむを得ないのではないかと思う。(60歳以上・勤め人)
- 乾燥が悪いと木材の曲がりなどが激しいので、大工が結構嫌がる。最近は、コンピュータで予め木材にボルトや金具用の穴を開けたり加工するので、狂いが激しいと困るらしい。海外の木材は国産の物より平均で高いらしいのだが、乾燥施設がしっかりしているので、大工も使いやすいみたいだ。県産の木材もきっちりした乾燥施設があれば、木材を取り扱う業者の方々も積極的に使いたがったり、売りやすくなるのではないのでしょうか。(20歳代・自営者)
- 県産材を使用した木造住宅は理想です。でも、「実際はどうなのか?」と分からないことだらけです。本当に県産材を使用しているのかも素人目には分からないし、やはり大工さん(建設会社)との信頼関係もとても大事だと思います。(40歳代・無職等)

木造住宅、木造施設などについて

- 木造建築といえば法隆寺が代表的なものですが、昔からの建て方ですと耐用年数も長く、長所が多いと思います。そういう建物が増えることを私は望んでいます。(60 歳以上・無職等)
- 自分の住宅としては、県産材を使用したいかどうかはまだ知識が足りないため、よく分からないが、価格の問題や住みやすいかなど、長所や短所が分かれば考えやすい。木造の公共施設に入ったことがあるが、ぬくもりを感じられたのでとても良い印象を持った。今後もさらに活用してほしい。(30 歳代・無職等)
- ストレスの多い現代社会です。また、少子化・核家族時代で人と人とのコミュニケーションが大変希薄になっています。一番身近な環境である家での住まいは、重要な部分を占めているのではないのでしょうか。木造住宅のような癒される空間で過ごすことで、心がやさしくなれるのではと思います。(60 歳以上・無職等)
- 木造住宅の良さは、やはり木の持つあたたかさであると思う。幼い頃から木の柱、木の壁に手を触れて育つことは、子供が育つうえでとても重要な気がする。それゆえ、教育施設に木材を使用し、子供達に大事に使用するようには教えたらどうか。木材は傷がつきやすいが、安全であるし、補修もしやすいので、大事に扱えば長く使用していけるということ。(50 歳代・勤め人)
- 近隣の他町の住宅団地を見ますと、最近できた住宅では木造住宅となっており、“木材”はどこ産地かは不明ですが、すばらしい住宅です。(外見も、内も、住み心地良く、快適と聞かされています。)青森県が全国有数の森林県というのは、今回初めて知りました。これを機に木造住宅、施設にどんどん関心が沸いてきました。これからも利用し、活用されていくことを望みます。(40 歳代・勤め人)
- 老人ホームなどに木材を使えば木のぬくもりがあり、老人に安らぎを与えるのではないかと。(30 歳代・自営者)
- 集合住宅(特に県営住宅・市営住宅)にもっと木材を取り入れたら良いと思います。(50 歳代・無職等)
- 私が卒業した小学校は築 100 年近く経っており、校舎にはネズミの出入りする穴があったり、とても不潔でした。学校は木材でない方が良いと思います。(40 歳代・勤め人)
- 木造住宅はあたたかみがあり、住みやすいが、建築の技術をもう少し高めてもらいたいです。技術不足の人がいますので、県産の材料もうまく使えない所もあります。(60 歳以上・無職等)

●木造住宅は、どうしても大工さんの工賃等を含めて、比較的高いものになりやすい。充分乾燥した木材を使用し、プレカット工法をもっと多く取り入れると、かなり低価格になるのではないかと思います。(60歳以上・無職等)

●築13年目の自宅に先月シロアリが発生し、建築と防虫会社の方が外壁のサイディングを取り壊し、駆除対策をしました。外壁の中の木材の棧(サン)や横板の大部分がアリの食害でコルク状に食い尽くされていましたが、柱がヒバでほとんど被害がありませんでした。ヒバ材が防虫に良いことを聞いていましたが、実証された所を見て、ヒバ材の良さを納得しました。(60歳以上・勤め人)

●私共では、事務所の内装にスギ板を横張りにして使用しており13年になりますが、現在はアメ色の様になり、ふしもたくさんあるのでかえってアクセントになり、皆さんから落ち着いてホッとすると、とてもステキだと言われます。冬も暖まってしまうとなかなか温度が下がりません。県外からお出でになるお客様が皆びっくりします。広く家庭でも使われたら良いと思います。(50歳代・自営者)

PRの方法について

●一般の人は(私も含めて)県産材使用の木造住宅について、知識があまりないと思います。何か周知するイベントなどを定期的に行っているのでしょうか。住宅展示場はセールスなどがありそうで、気軽に見学できない感じがします。県で年に2.3回、イベントを開いてもらいたいです。(40歳代・勤め人)

●県産材を使った公共施設、またはモデルハウスの宣伝などをもっと豊富に届けて欲しい。(50歳代・自営者)

●ふらりと足を運んだ道の駅が県産材を使用した建物で、その道の駅で県産材を紹介したなら、県産材の広報活動に役立つのではと考えています。(60歳以上・無職等)

●県産材を利用促進していることすら知りませんでした。現在、青森県内の公共施設等のどこで県産材を使用しているかは、ほとんどの人達が知らないと思います。県産材を使用した公共施設等には、ちょっとした県産材使用のプレートなどを設置し、見る人達にもっとPRした方が良いと思います。(50歳代・自営者)

●木材について県産材か否か、あまり考えたことはありませんでした。それは、スーパーで野菜を買う時、そこにあった野菜がどこの県の野菜かを見ないのと同じ感覚です。もっと、(特に、建築の仕事に関わっている人に)県産材の良さをアピールして欲しいと思います。(30歳代・勤め人)

●県産材というと、どうしても高いイメージがあり、実際高い気がします。しかし、あたたかいという感じがあり、完成品やパンフレットで見ても実際にそう思い

ます。価格がどれ位なのか、こういった利点があるのか、もっとPRして一般市民に広められたらいいと思います。(40歳代・勤め人)

- 県産材といっても他県産などと比べて、価格が安いのか高いのかとか、材質はどうなのかなど、青森県民でも分からない人が多いと思います。私もよく分からないので知りたいと思います。

県で県産材を広めたいと思うのであれば、県民に県産材についてもっと詳しくPRした方が良いでしょう。(30歳代・勤め人)

- 公共事業等で積極的に使用してきたとありますが、身近に県産材を使った施設があるイメージがありません。

県産ヒバ、ブナ材を使った住宅が欲しいと思いますが、どの位コストアップになるか、取り扱う工務店がどの位あるのかいまいち分かりません。分かりやすいアピールが必要と考えます。(30歳代・勤め人)

- 間伐の重要性はテレビなどで知ったが、その後の利用についてはよく知られていないと思うので、PRをもっと行えばいいのではないか。(間伐材を利用した割りばし位しか知らない)(20歳代・自営者)

- 青森県産の木材の良さをもっとたくさんの人に知っていただくためにも、マスメディアなどCMなどでもっと強くアピールしたら良いと思います。

小学校などで木材建築の校舎により、“キレル”児童が減少したという結果が出たというのも耳にしたことがあります。秋田杉のように青森ヒバ、スギなどブランドにしていけば良いのではと思います。(40歳代・勤め人)

- 以前、林業に関わる方と話をする機会があり、その時に県産材の方が価格が安いのに売れないと言っていたことを印象深く覚えています。経済の原理から言えば、安く良い物が売れない理由は営業力の問題だと思います。

今回の資料(あおもり産木造住宅コンテスト作品集)にもあったのですが、県産材を使うことが何か特別なことのような宣伝の仕方は、全体の消費拡大にはつながらないと思います。(30歳代・自営者)

- 以前、住宅を新築する時、青森の木材を打診しましたが、あまり住宅メーカーの人が乗り気ではありませんでした。また、青森の木材を使うと補助が出るとも聞いていたのですが、情報が少なく断念しました。(4年前です。)もっと情報とPRがあれば変わってくると思います。(30歳代・勤め人)

地産地消について

- 地産地消は、運搬などに伴うエネルギーコストもかからないので良いと思う。(20歳代・無職等)

- 食べ物もそうですが地産地消が大事だと思います。輸入木材が安く海外から入ってきていますが、県の林業発展のための政策も必要です。県産材は、輸入木材に比べてどういうメリットがあるのでしょうか。そこをもっとアピールし、県産材が使われるようにしたらどうでしょうか。(50歳代・無職等)
- 県産材使用は、地産地消の極みだと考えます。家を建てるのは、一生の事業であり、県産材を使うことで、一生心に残るあたたかさを感じることができると思いますし、もっと積極的な活動（PR等）が必要と思っています。(50歳代・勤め人)
- 地産地消というように県産品を大いに活用すべきだ。特に青森県産木材は高い評価を得ているので、これからもっともっと使用していくべきだと思う。木には、あたたかみ、ぬくもりといった心を癒す力があるのでぜひ活用していきたい。(20歳代・自営者)
- 「あおり産木造住宅コンテスト」が開催されていることは、全然知りませんでした。県産材の地産地消のためにも、もっと大々的に告知した方が良いと思います。私も3年位前に木造住宅を新築しましたが、今回送られてきた資料を見るまで、どこの資料を使ったかなど考えたこともなく、建築会社任せでした。もっと早く考えさせられたら、少しでも多く県産材を取り入れていたと思います。こういう資料を多くの人に見てもらえれば、消費は確実に増えると思います。(30歳代・無職等)

資源の活用（確保）について

- ヒバやケヤキなど県産材の資源活用と、植栽による継続的な資源確保を図るべきである。また、木材の加工法を研究し、狂いをなくし、耐久性を図るべきである。(60歳以上・無職等)
- 鉄材は木材より腐食しやすい。木材は条件さえ良ければ、鉄材より長持ちする。スギより、ヒノキ、ヒバを植林すべきであろう。グローバルといわず、国産自給を図るべきである。(60歳以上・自営者)
- 県産材は「高い」というイメージがあるので、使いたくても手が出ないのではないのでしょうか。この頃は木材などのリサイクルも可能となっているみたいなので、上手に使えるアドバイスを受けて、説明があつたりするとういのではないのでしょうか。(40歳代・無職等)
- 県内企業も県産材を使用し、もっと積極的に広くPRしたらと思います。また、植林に力を入れて県材の確保に努めるべきです。林業がないがしろにされているように思えます。そのためか製材業や材木業が減少しており、材料の価格が高くなっているのではないのでしょうか。(60歳以上・無職等)
- 理想では、木に囲まれて暮らしたいし、今、どちらかというと家が田舎にあるので、木

に囲まれて暮らしていますが、みんながみんな青森県産の木材を使って家を建てるとなると、不安を感じます。それはやはり『地球温暖化』で、酸素が少なく二酸化炭素が増えて、将来の子供達、孫達のことを考えると、木を切り過ぎるのはどうかと思います。ですので、何でも新しく、新築ではなく、リサイクルや古き良き物を大事にということに力を入れたら良いと思います。(30歳代・無職等)

- 木造住宅や木造施設が増加するのは好ましいことではあるが、あえて「県産材」を使用するメリットが思い浮かばない。(強いて言うならば、青森県の「イメージアップ」、「知名度向上」位なら効果はあるだろう。)
また、県産材を使用することで、県内の森林面積が減少してしまい、地球温暖化に拍車をかけることにもつながりかねない。どうしても県産材の使用を促進するならば、植林事業なども並行して進めなければならないだろう。(20歳代・勤め人)

その他

- 住宅建築予定者を対象に「木材」に係る勉強会の組織を立ち上げ、県産材の普及促進に努めてもらいたい。(60歳以上・無職等)
- 私達の住んでいる青森県は自然に恵まれて生活をしていますが、その割に森林の重要性の認識に欠けていると思われます。特に次代を担う青少年に対する指導が薄れていることは重大なことであり、県民がこぞって認識を高められるよう具体的に中、長期的な目標をさらに考え行政に生かし、県民の意識の向上に努めて欲しい。(60歳代・無職等)
- 私の実家のある秋田県では、木材の資源が豊富で、県産材を使って住宅を建てる場合などに資金的な補助などが行われていたと思います。それと同じことが青森県でも実施されていたと思いますが、これは森にもやさしいし、その先の環境についても考慮されていてすばらしい取り組みだと思います。
補助などについては、若い世代の人でも「積極的に県産材を取り入れた住宅を建築したい!」と思われるような、分かりやすく、利用しやすいような制度がもっと充実すると嬉しいです。(20歳代・無職等)
- 建築資材などに対する知識がないので、大工さんに一任するケースが多いようです。価格や間取りなどについては家族で話し合ったり、あるいは、よその住宅を見たり聴いたりしますが、今回のアンケートを通じて、これから住宅を建築する場合は事前にある程度の予備知識が必要と考えます。そのため、講習会などあれば積極的に出席するように心掛けることが必要ではないでしょうか。
また、各市町村の建設課などでも住民の方々にPRすべきだと考えます。(60歳以上・自営者)

平成21年度第2回

県政モニターアンケート調査票

テーマ: 県産材を使用した木造住宅と木造施設に関する意識調査

提出期限 平成21年7月22日(水)

本県には、ヒバやスギ、アカマツ、ブナなど多様な樹種が分布していますが、特に、スギの人工林面積は全国4位を誇り、全国有数の森林県となっています。

これまで青森県では、公共事業等での積極的な利用をはじめ、住宅建築などにおいて県産材の利用促進に努めてきました。

地球温暖化防止に重要な役割を担う森林を健全な状態に保つためには、森林の間伐が重要です。間伐によって発生する木材を住宅などの資材として有効に活用することが、森林の整備や林業の担い手の育成、木材産業の活性化につながります。

そこで、県民の皆さまから、県産材を利用した木造住宅や木造施設に関する意識とご意見をお聞きし、今後の施策に役立てるためのアンケートを実施することとしました。

※県産材とは、青森県内で伐採された原木を材料として、原則として、県内で加工された柱や板などの製材品のことです。

調査結果の公表にあたっては、全て「このような意見が〇〇%」という数字で処理し、個人名は一切出ませんので、ご協力をお願いします。

記入にあたっての留意点

- (1) 回答は、別紙回答用紙の回答欄に該当する番号や記号を記入してください。(ただし、自由回答を除く。)
- (2) その他を選んだ方は、回答欄の□に内容を具体的にお書きください。
- (3) この調査に関するご質問がありましたら、下記までお問い合わせください。

青森県 農林水産部 林政課

担 当 林産振興・普及グループ 鈴木、辻

電話 017-734-9517

問1 あなたが、現在お住まいの住宅は、次のどれに該当しますか。(回答は1つ)

(1) 持ち家の一戸建て	79.8 %
(2) 持ち家の共同住宅(分譲マンションなど)	1.1 %
(3) 借家の一戸建て	5.1 %
(4) 借家の共同住宅(賃貸マンションや賃貸アパートなど)	7.9 %
(5) 公営住宅(県営住宅や市町村営住宅など)	2.8 %
(6) 社宅・官舎・寮など	1.1 %
(7) その他	2.2 %

問2 あなたは、これから自分が住む住宅としては、持ち家と借家のどちらがよいと思いますか。(回答は1つ)

(1) 持ち家がよい	86.0 %
(2) 借家がよい	3.4 %
(3) どちらでもよい	9.6 %
(4) その他	1.1 %

問3 あなたが、もし、新たに住宅を取得するとしたら、どのようなことを重視しますか。(回答はいくつでも)

(1) 価格	83.1 %
(2) 間取り	74.7 %
(3) 建築材料	55.6 %
(4) デザイン	48.3 %
(5) 修理・修繕のしやすさ	36.0 %
(6) 断熱性や気密性など省エネルギーへの配慮	73.6 %
(7) 高齢者をはじめ誰もが使いやすい構造や設備(ユニバーサルデザイン)	65.7 %
(8) 内装材などからの有害物質への配慮	55.1 %
(9) 日照・採光のしやすさ	72.5 %
(10) 耐久性(色あせやサビなどの劣化を防ぎ、住宅を長持ちさせる性能)	66.3 %
(11) 地震や台風、雪などに対する強さ	80.3 %
(12) 火災に対する燃えにくさ	50.6 %
(13) 防犯性	48.9 %
(14) その他	6.2 %

問4 あなたが、もし、新たに住宅を取得するとしたら、どのような構造や工法を選びますか。
(回答は1つ)

(1) 在来工法の木造住宅(注1)	55.1 %
(2) ツーバイフォー工法(注2)など由来工法以外の木造住宅	12.4 %
(3) 非木造住宅(鉄筋・鉄骨・コンクリート造りのもの)	3.4 %
(4) その他の構造や工法	2.8 %
(5) 構造や工法などで選ばない	10.1 %
(6) わからない	16.3 %

(注1) 在来工法の木造住宅とは、日本の伝統的な住宅の建て方で、柱や梁(はり)などに木材を使用し、屋根からの加重を支える構造の軸組構造住宅。

(注2) ツーバイフォー工法(2×4工法)とは、アメリカやカナダで普及している、壁面を造って組み立てる木造工法。2インチ×4インチの構造材で、フレーム状の木枠に構造用合板を釘打ちした壁面を、壁、床、天井などに組み立て、壁や床などの面全体で家を支える構造の住宅。枠組壁工法とも呼ばれる。

問4-1 問4で(1)、(2)と答えた方は、木材を住宅のどこに重点的に使用したいですか。
(3)~(6)と答えた方は、木材を住宅のどこに使用したいと思いますか。
(回答はいくつでも)

(1) 柱や梁(はり)などの構造材	77.5 %
(2) 床材	60.7 %
(3) 壁材(内装)	45.5 %
(4) 壁材(外装)	24.2 %
(5) 天井	38.2 %
(6) その他	2.2 %
無記入	11.8 %

問5 あなたは、住宅を建築もしくは増改築する際に使用する木材の産地を気にしますか。
(回答は1つ)

(1) 気にする	51.1 %
(2) 気にしない	34.8 %
(3) わからない	12.9 %
(4) その他	1.1 %

問5-1 問5で「(1)気に入る」と答えた方にお聞きします。
木材は、どこの産地のものを使用したいと思いますか。(回答は1つ)

(1) 県産材	85.7 %
(2) 県産材以外の国産材	4.4 %
(3) 外国産材	0.0 %
(4) 特にない	2.2 %
(5) わからない	2.2 %
(6) その他	4.4 %
無記入	1.1 %

問6 県産材を使った木造住宅のイメージはどのようなものですか。
(回答は、項目ごとにア・イのいずれかを選んでください。)

(1)健康面	
ア 健康によさそう	99.4 %
イ 健康に悪そう	0.0 %
無記入	0.6 %
(2)居住性	
ア 住みやすそう	98.6 %
イ 住みにくそう	1.1 %
無記入	0.6 %
(3)気候、風土への配慮	
ア 青森の気候、風土に合っている	98.3 %
イ 青森の気候、風土に合っていない	1.7 %
(4)ぬくもり	
ア ぬくもりを感じる	98.3 %
イ ぬくもりを感じない	1.1 %
無記入	0.6 %
(5)価格面	
ア 価格が高い	80.9 %
イ 価格が安い	18.5 %
無記入	0.6 %

(6)建築工期	
ア 建築工期が長い	77.0 %
イ 建築工期が短い	21.9 %
無記入	1.1 %
(7)技術面	
ア 大工の技術が高い	82.0 %
イ 大工の技術が低い	17.4 %
無記入	0.6 %
(8)デザイン性	
ア デザインがよい	67.4 %
イ デザインが悪い	30.3 %
無記入	2.2 %
(9)その他	18.0 %
(具体的に記入)	

問7 あなたが、もし、新たに住宅を取得するとしたら、県産材を使おうと思いますか。
(回答は1つ)

(1) 県産材を積極的に使用したい	34.8 %
(2) 他の産地の木材と価格が同じであれば使用したい	32.6 %
(3) 県からの助成があれば県産材を使用したい	16.3 %
(4) 住宅ローンの利率が低くなるのなら県産材を使用したい	9.6 %
(5) 県産材は使用しない	0.0 %
(6) わからない	6.2 %
(7) その他	0.6 %

問8 地球温暖化に配慮した住宅とするために、どのような住宅とすべきだと思いますか。(回答はいくつでも)

(1) 太陽光発電や太陽熱利用の設備を設置した住宅	81.5 %
(2) 高气密・高断熱の省エネルギー住宅	75.8 %
(3) 耐用年数の長い長寿命住宅	68.5 %
(4) 住宅建材にリサイクル製品を使用した住宅	30.9 %
(5) 県産材など地域の森林資源を活用した住宅	64.6 %
(6) わからない	0.6 %
(7) その他	1.7 %
無記入	0.6 %

問9 建築資材としての木材の魅力について、あなたが知っていることを全てお答えください。(回答はいくつでも)

(1) 軽い割に強度が高い	38.8 %
(2) 断熱性が高い	37.1 %
(3) 湿度を調整する機能がある	74.7 %
(4) 衝撃を緩和する機能がある	41.0 %
(5) 再生可能な材料である	43.3 %
(6) 製造過程でのエネルギー消費が少ない	19.1 %
(7) 伐採後に植栽することなどにより永続的に利用可能な材料である	44.9 %
(8) わからない	12.4 %
(9) その他	2.8 %

問10 建築用の資材として、木材によくないイメージがありますか。(回答は1つ)

(1) ある	25.8 %
(2) ない	57.9 %
(3) わからない	16.3 %
(4) その他	0.0 %

問10-1 問10で「(1)ある」と答えた方にお聞きします。
木材のよくないイメージは、どんなことですか。(回答はいくつでも)

(1) 燃えやすい	47.8 %
(2) 割れやすい	37.0 %
(3) 寸法が狂いやすい	30.4 %
(4) 腐りやすい	54.3 %
(5) 強度が弱い	21.7 %
(6) 価格が高い	52.2 %
(7) なんとなく	0.0 %
(8) その他	8.7 %

問11 木材を利用した施設は、どのような印象ですか。(回答は1つ)

(1) 印象がよい	94.4 %
(2) 印象が悪い	0.6 %
(3) 特に印象はない	5.1 %
(4) その他	0.0 %

問11-1 問11で「(1)印象がよい」と答えた方にお聞きします。
印象がよい理由は、どのようなものですか。(回答はいくつでも)

(1) 景観に配慮されていて見た目がよい	43.5 %
(2) あたたかみやぬくもりがあってよい	94.6 %
(3) 心が落ち着いてよい	80.4 %
(4) 健康面で安心感があってよい	61.9 %
(5) 柔らかくてよい	39.9 %
(6) デザインがよい	17.9 %
(7) 木材を使用しているというイメージがよい	45.8 %
(8) その他	1.8 %

問12 木材をどのような施設や場所で利用すればよいと思いますか。(回答はいくつでも)

(1) 幼稚園や学校などの教育施設	84.3 %
(2) 体育館や武道場などの運動施設	42.7 %
(3) 公民館や集会所などの集会施設	60.1 %
(4) 病院や老人ホームなどの医療・社会福祉施設	63.5 %
(5) 図書館や文化会館などの文化施設	56.7 %
(6) 駅やバス停などの交通関係施設	30.9 %
(7) 公園の遊具や東屋などの公園施設	52.8 %
(8) 道路沿いの花壇や柵などの道路施設	33.7 %
(9) 道の駅や産直施設などの販売施設	70.2 %
(10) わからない	0.0 %
(11) その他	2.8 %

問13 あなたは、木材を利用した施設が増えたらよいと思いますか。(回答は1つ)

(1) はい	84.8 %
(2) いいえ	0.0 %
(3) どちらでもない	13.5 %
(4) その他	1.7 %

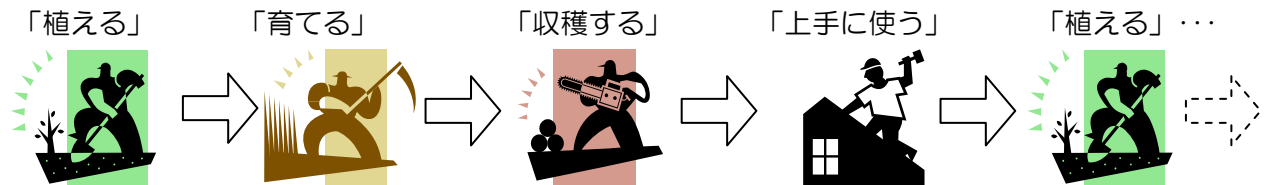
問14 県産材を使用した木造住宅や木造施設について、ご意見、ご要望などがありましたら、ご自由にお書きください。

*** ご協力ありがとうございました ***

あおもり産木造住宅コンテスト

青森県は多様な樹種が分布する森林県であり、特にスギの人工林面積は全国4位と豊富な資源量を誇っております。

この恵まれた森林資源を有効に活用し、

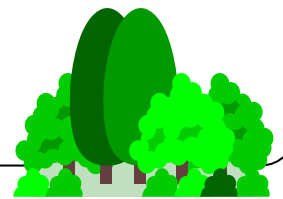


という「森林の循環」をつくり、私たちに様々な恵みをもたらす、青森の森林を元気にするために、県産材を積極的に利用する取組を推進しています。

あおもり産木造住宅が増えると・・・

県産材がどんどん利用されるようになり、「森林の循環」を促進し、新たな森林を育てることにつながります。

元気に育つ森林は、CO₂をたっぷり吸収し、地球温暖化の防止に役立ちます。



安全・安心で良質な県産材の木造住宅を広く県民の皆様にご覧いただき、木材の地産地消を推進するため、『あおもり産木造住宅コンテスト』を開催しています。

『第2回あおもり産木造住宅コンテスト』の対象住宅

- ①青森県内において建築された新築の一戸建て木造住宅
- ②平成19年4月1日から平成21年10月31日までに完成したもの
- ③青森県産材を概ね10㎡以上使用しているもの
- ④過去に類似の賞に入選したことのないもの
- ⑤過去にあおもり産木造住宅コンテストに応募していないもの



募集期間

平成21年7月15日
～10月31日

公開審査

11月中旬から行います。
皆さんの投票よろしくお
願いします。



コンテストでは、インターネット等によるアンケート形式の公開審査及び審査委員会による書類審査と現地審査を実施し、以下の審査基準で総合的な審査を行います。



- 審査基準
- ①デザイン性・印象
 - ②木の良さが活かされているもの
 - ③地域の気候、風土への配慮がされているもの
 - ④地球環境への配慮がされているもの



主催：あおもり産木造住宅コンテスト実行委員会

詳しくは、下記のホームページをご覧ください。

第2回コンテスト募集案内等 (http://www.pref.aomori.lg.jp/sangyo/agri/rinsei_contest.html)

第1回コンテスト作品集

(<http://www.pref.aomori.lg.jp/sangyo/agri/kennsannzaijuutakusakuhinshuu.html>)

平成 21 年度第 2 回県政モニターアンケート報告書

— 県産材を使用した木造住宅と木造施設に関する意識調査 —

編集・発行

青森県企画政策部広報広聴課

〒030-8570 青森市長島一丁目 1-1

電話 017-734-9138

青森県産材の
勝ち、



決め手は青森県産材